

進途上のサウエート・ロシヤ

特210
649



高橋利雄著

一九三一年

露西亞通信社

3



0000932-000

特210-649

露西亞通信社の進途上のサウエート・ロシヤ

高橋利雄・著

露西亞通信社

昭和6

AAB

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年5月15付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

進途の上のサ
ウエー
ト
ロ
シ
ヤ

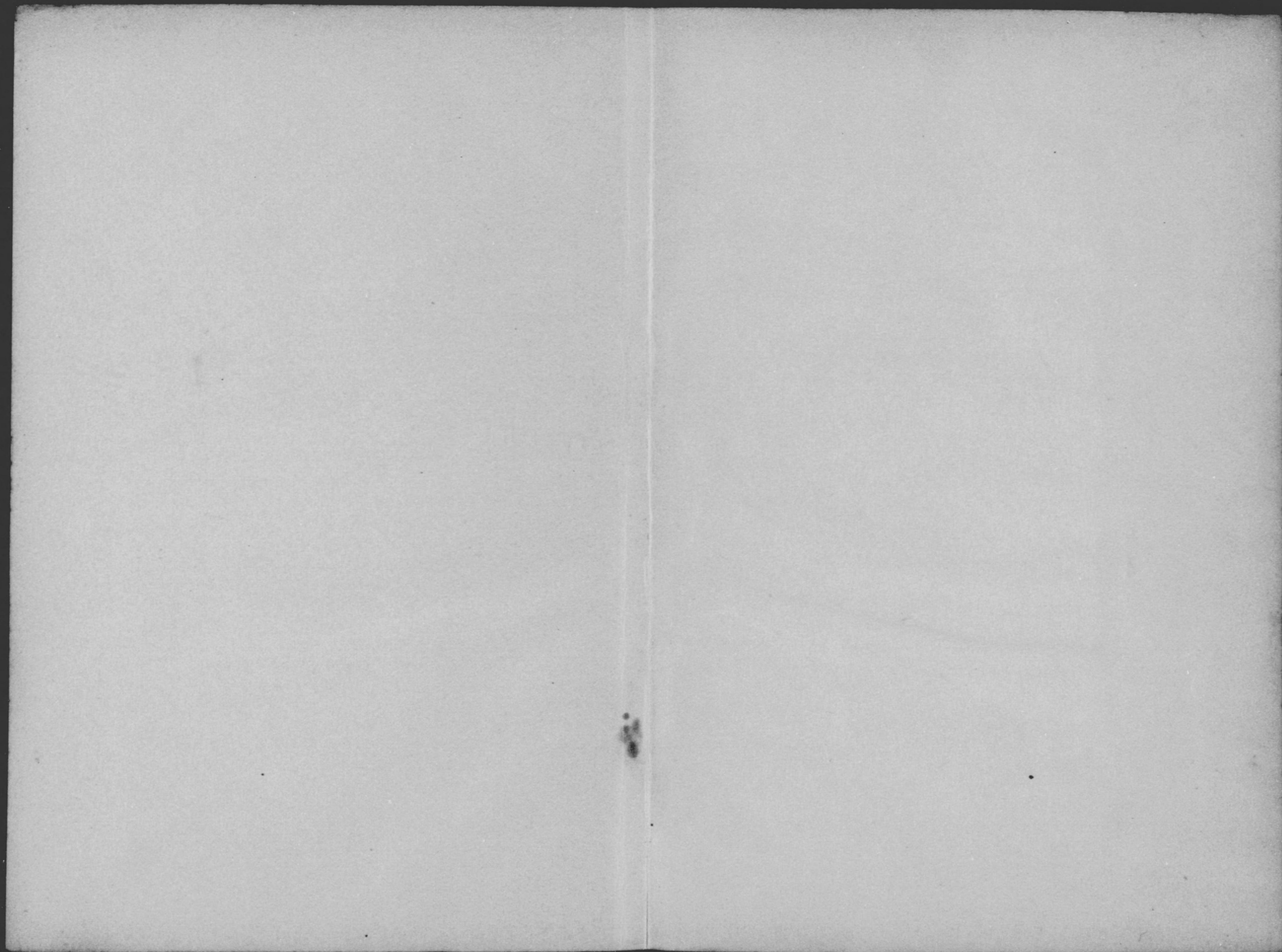
特210
649



高橋利雄著

一九三一年

露西亞通信社版



特210
649

高橋利雄著



の
サウエート・ロシヤ

露西亞通信社版



序

サウエート聯邦今日の歩みは世界革命への前提として尠大なる五ヶ年計画のスローガンを掲げ、先づ以て對内的への總ての充實と完成とにある。

その募進の光景は七、八百億留の巨資を投ずる點から見ても將に國運を賭しての一大戦争と同然である。

此の戦争的全國家事業の擴大充實に向つての募進の反面には言語に絶する困憊せる國民生活の慘狀と不自由とがある。

然しサ聯邦政權の言を以てすれば這箇目的達成の爲には國民生活の困苦缺乏の如きは暫く忍ばなければならぬ、と。

何れにしても此の非常的計劃が——假りに何年か延びても——完全に實現された曉は、その完成せられたる全エネルギーを傾倒して直に對外的に、より募進して來るであらうこ

とは容易に窺ひ知らるゝ所である。

今は將に「暴進途上のサウエート・ロシヤ」であるが、やがてその暴進が——内から外に面を向けて——對外的スタートを切つた場合、現在の組織下にある資本主義諸國が果してよく優越感の對立を味ひ得るであらうか、否か？

吾人の大なる疑問は此處に存する。

殊に況んや混沌たる内政が直に反映して外侮を受けんとするが如き日本の現状を想ふ時、而してサ聯邦の奏するユートピアへの行進曲が異様の響を以て強く吾人の耳朵を打つるとき、與へられたる使命に依り偽らざるサ聯邦強行軍の實況を廣く江湖に報告するの責務亦重大なりと信ずる。

昭和六年三月廿五日
(近藤社長入露の日)

露西亞通信社主幹 高橋利雄



革命記念日觀兵式に於ける赤軍騎兵の車載機關銃隊の進行

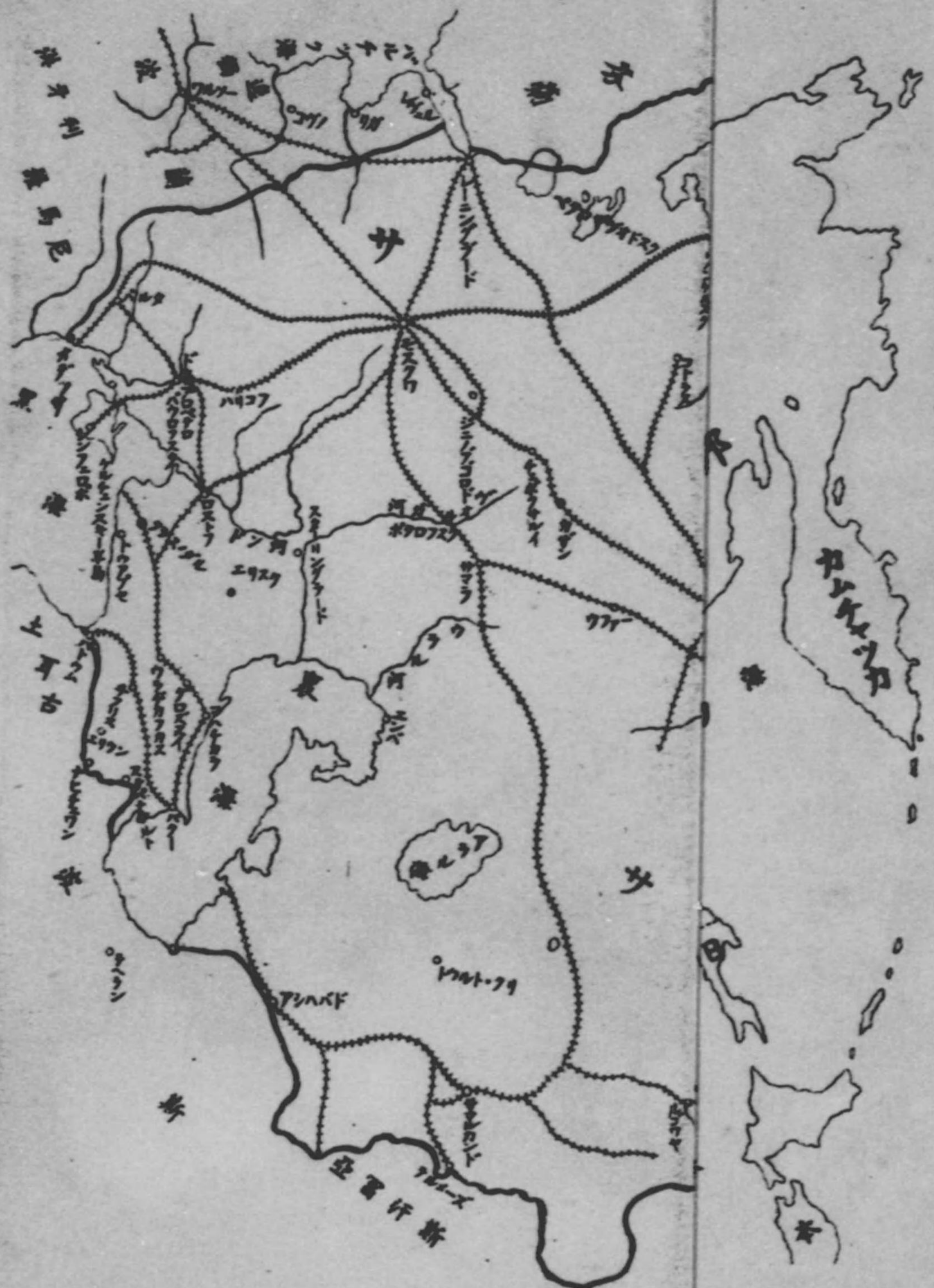
五年計畫を四年に!!
農業工業に聯邦を
再建せんとす(ポタス)



資本主義諸國の軍備に對し
レーニン黨の強固化……
アイヴァムに通じ國防の
充實を以て應へんとす(ポタス)

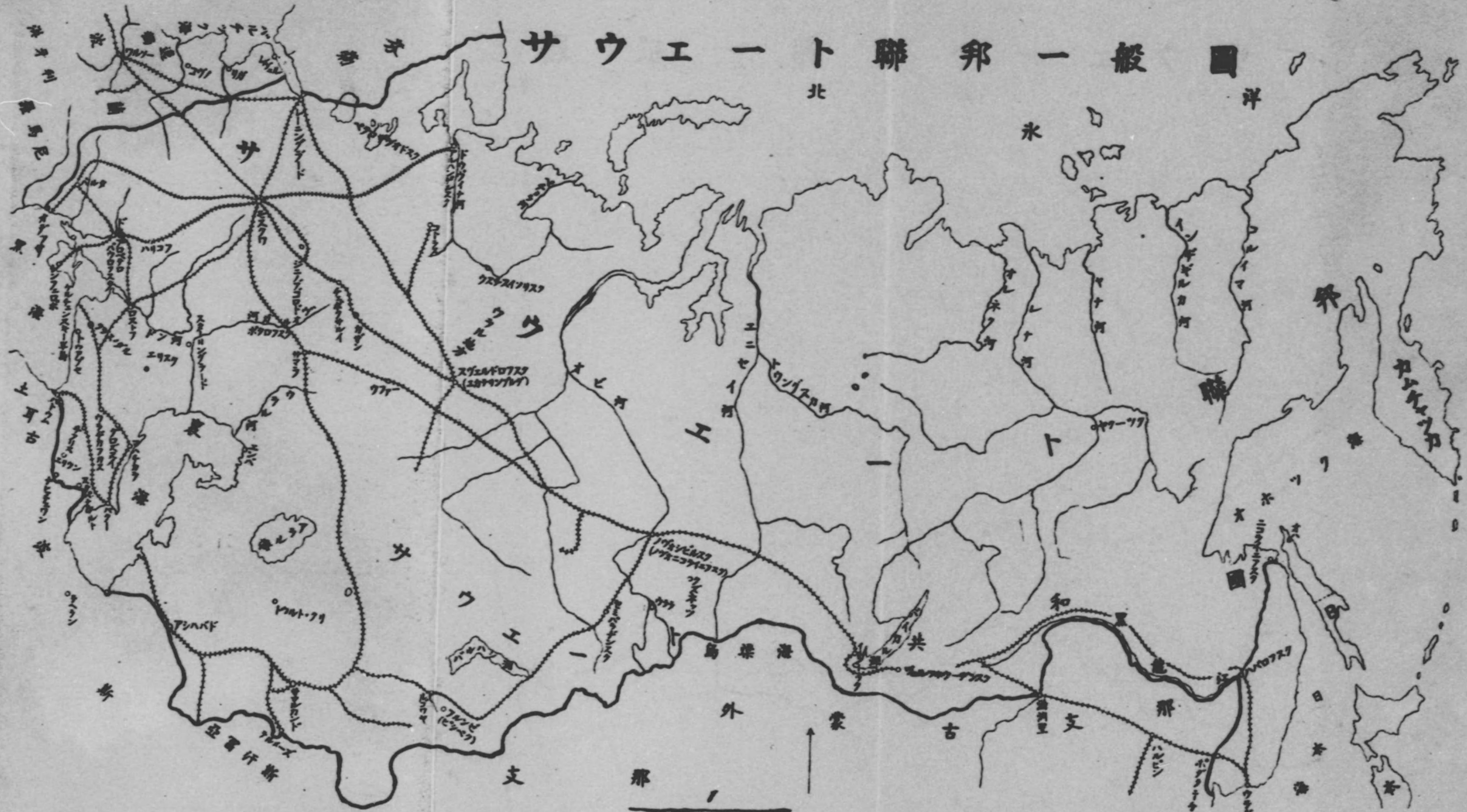


——況狀築建の場工具農大る於に亞利伯西——
 げ曉の工竣・定豫の成完月十年一、三九一—
 るあでのもの大最界世はてしと場工種斯



サウエー卜聯邦一般圖

北



19,500,000

- 国境
- 河川
- 鉄道
- 都市

幕進途上のサウエート・ロシヤ

目次

はしがき	一
第一章 政策變遷の跡を見る	六
戦時共産主義の失敗	六
新經濟政策より五ヶ年計畫迄	九
サ聯邦政策變遷概見表	一四
第二章 五ヶ年計畫と産業	一九
計畫は實行可能なりや	一九
計畫の概要	二一
重工業計畫の展望	二四

電化事業……………(二五)

燃料……………(二六)

製鐵及機械製作工業……………(二七)

農業と運輸……………(三〇)

社會主義的見地よりの觀察……………(三一)

計畫は如何に實施せられつゝありや……………(三二)

計畫に伴ふ幾多の障礙……………(三九)

五ヶ年計畫の將來及反映……………(四六)

第三章 五ヶ年計畫と國防……………(五一)

赤軍はサ聯邦の楯であり……………(五一)

世界革命の前衛である……………(五一)

軍備の概観……………(五三)

軍の機械化……………(五八)

化學戰準備……………(五九)

空軍の擴張……………(六〇)

國防充實第一主義……………(六四)

第四章 國民私生活の窮困と社會的混亂……………(六六)

物資窮乏と極度の節約……………(六六)

共產黨治下の社會相斷片……………(七二)

第五章 サ聯邦の對外策、就中其の東の方策……………(七七)

西方より東方へ……………(七七)

回教諸國の反歐運動……………(七八)

對支活動の種々相……………(八〇)

對日關係の實相……………(八四)

第六章 國策遂行に有利な國家組織……………(八六)

政治組織……………(八六)

サウエート大會……………(八七)

特殊の組織、制度……………(八八)

第三インターナショナル、その他……………(八九)

國策の遂行の方式……………(九〇)

結論……………(九一)

最近スターリンの激勵演説

サ聯邦經濟建設當面の諸問題……………(一一二五)

幕進途上のサウエート・ロシヤ

は し が き

浦鹽斯德^{ウラヂオストフク}——夫れはロシヤの極東に於る唯一の良港であることは何人も知る所である。ところで、浦鹽斯德と云ふ言葉は一體何を表現するか、ロシヤ語でウラヂと云ふのは占領すると云ふ意味であり、ウオストークとは東方を云ふのである。故にウラヂウオストークとは「東方を占領する」と云ふ意味である。夫れはピーター大帝以來ロマノフ王朝三百年の間、領土擴張、東方侵略に一貫したロシヤの雄圖を物語る記念碑である。「双頭の鷲」旗を打ち翻し歐亞大陸に跨つて世界陸土の六分の一を占領した帝政ロシヤの霸業は革命によつて遂に覆滅した、然して北方の雄として四圍を壓した帝國主義ロシヤの脅威は、ポリシ

エウイキ政權への推移によつて果して消滅したであらうか!?

「帝國主義絶對反對」、「被壓迫民族解放」等特異のスローガンを掲げ、以て列強を誹謗しその進出を牽制する一方弱小民族の歡心を買ひ彼等を赤色旗下に糾合せんとする独自の新外政様式を創始したサウエートは、その對外政策に於て舊帝政時代の侵略主義を全く變革したる如く看取される。然しながらサ聯邦(以下サウエートロシヤを略稱してサ聯邦の字を用ふ)の實際に行ひ來り又現に行ひつゝある業績について見るに、その對外方略は之を舊帝政のそれに對比し形式及手段に於て異なるのみであつて侵略主義の實質に於ては何等の差異がないと云ふべきである。對回教民族煽動、對印度畫策、對支政策、外蒙共和國の設立、等々、その實相を検討し、又第三インターナショナルの組織によつて列強國內の階級分裂並階級對立を誘發せんとする苦肉の謀策を見れば、サ聯邦の對外政策が赤色侵略主義の脅威と稱せらるゝも又當然と云ふべきであらう。列國が在來の所謂國際慣例に拘束され自由澄澗たる外政を行ひ得ぬ自繩自縛の状態を後目にして、サ聯邦が奔放傍若の外交方式を

採り縱横自在、臨機應變の手段に出で、列強をして應接に迷はしむる有様は寧ろ停滯沈淪せる今日の國際場裡に一味の清涼を與ふるの感あるを覺ゆる。サ聯邦の對外政策はその根本に於て在來國家の夫と異なるものあるは茲に説く迄もないが、その實行に當つても上述の如く独自の新様式を取り、最も強硬辛辣なる手段に出で居るのである。

冒頭に於てウラヂウオストークの意義を説く所以は此の間の事情を側面より語らんとする意向に外ならぬ、即ちペトログラードはレニングラードとなり、ツアーリチンがスターリングラードと變じたサ聯邦に、侵略主義の金字塔たるウラヂウオストークの名が依然として残されてあるのは皮肉なる一例證と見らるゝ。

由來、サ聯邦は謎の國として世界の視聽を集めて居る。革命以降の變化、殊に最近五ヶ年計畫の立案乃至その實施の狀勢が傳へらるゝに及び、或はサ聯邦の將來恐るべしとし、或は赤色政治に心酔するものあり。サ聯邦に對する論議、關心は益々高潮を呈して來た。此の間に於て、所謂左傾一派はサ聯邦側の宣傳をそのまゝ鵜呑みにして勞農政權を禮讚し、

ロシアの現實を以て勞働者、農民の極樂境の如く信じ、その主義を以て最高の理想として居る。又之に對して他の者は、ロシアの民衆、殊にその大部分を占むる農民の生活苦を具體的に引證し、鈍重無智のロシア人にして始めて此の苦難に堪へ得るので、他國に於ては到底斯る現象は許されぬ所である。五ヶ年計畫の如きも彼等の宣傳する程果して實績を擧げつゝあるか頗る疑はしい所である。兎に角、現在ロシアに於て行はれつゝある如き強制が施され莫大の犠牲が拂はるゝとすれば、一部工場の新設、事業開發の如きは當然の事である。然し斯る強行が何時まで許さるゝか、蓋しその前途は頗る疑問である。と論じ悲觀説をなす者も少くない。

斯る情勢を觀察すればトロツキーならずとも「ロシアよ、何處へ行く？」の疑問を發せざるを得ない事となる、然らば結局、謎の國サ聯邦は謎として残さるゝであらうか、否、事實はその必然赴くべき所に到達する、サ聯邦の存在は決して浮雲の如く把握し能はざるものでなく、又之を忽に看過する事は許されぬ。殊に吾等日本人として、隣邦ロシアの眞

相を究め以て將來の進展を察知することは最も緊要であると云はねばならぬ。日露戦争等過去の歴史を説く迄もなく、彼我の地理的關係、支那、就中滿蒙に於る兩國の微妙なる交渉等を考察すれば、日露兩國は如何なる場合と雖も無關係ではあり得ない、斯く觀じ來ればサ聯邦の正體を究むることの意義は愈々重大である。「彼(對者)を知り己を知れば百戰殆からず」とは只に兵家の至言たるのみならず、何人も忘るべからざる格言である、殊に國際場裡波瀾熾まることなき現下の時勢に對しわが國民たるもの須く此の言を座右銘とすべきである。

乃ち如上の意味に於てサ聯邦の實相を傳ふべく、茲に豊富的確なる資料を涉獵し以て中正なる立場に於て本書の稿を起した次第である。世上ロシアを傳ふる書籍は決して尠しとしないが、或は左に傾き、或は右に偏し眞のロシアを究めんとする要求に適合するものは殆ど稀である。以下本書各章の記述に於て正しきサ聯邦の形相を描出するであらう。

第一章 政策變遷の跡を見る

サ聯邦は一九一七年十一月の革命以來その政策、就中經濟政策に於て數次の變遷を重ねてゐる、即ち當初政權を獲得するやボリシエウイキは革命家一流の極端なる理想を實施し、一躍共產主義に移るべく所謂戰時共產主義を斷行した。然し斯る急變は到底遂行不能であつて結局失敗の事實を認めざるを得ざることとなり、レーニンは巧みに政策の退却を行つて新經濟政策を探り、更に又新々經濟政策を實行して資本主義の一步前まで逆戻りを行なした、然るに一時退却を行つて時機を待つたサ聯邦政府當局は五ヶ年計畫の立案と共に再び左傾政策に返り所謂社會主義的建設に邁進し始めた。斯の如き政策の變轉、推移は何故に行はれたか、而して又現在の強行的左偏政策は如何なる内容のものであるか、以下逐次之等の問題に就ての説明を展開しよう。

戰時共產主義の失敗

一九一七年十一月レーニン一派が國內の動搖に乗じて當時のケレンスキ政府を打倒し政權を獲得するや、彼等理想家は平素抱懐せる政策の實現を勇猛果敢に開始した、即ち外に對しては戰爭の即時中止と外債の破棄、内に對してはツアール、地主の所有であつた土地の農民への分配、商業の國營、鑛山、鐵道、各工場等の沒收並勞動者に依る工場管理經營等を實行した、併しながら此の理想政策は決して良果を結ばなかつたのみならず、急遽なる變革は一切の經濟を支離滅裂に導き、加之一九二〇—二一年のウォルガ河畔に於る未曾有の大饑饉と相俟つてロシアは正に一大餓鬼道を現出した。數億の巨費を投じたナンセン氏等の救濟も施すに術なく飢餓民は人肉をさへ喰ふに至つたのであつた。

何故に理想政策が敗れたか？ 理想の徒たる共產主義者等が實際政治の運用に慣れなかつたのも一因であらう、又文化程度の低いロシア國民が此の高遠なる理想を解し得なかつたのも失敗の原因に數へることが出來よう、併しながら理屈はともあれ、土地は百姓に分配されて彼等永年の望は達せられたとは云ふものゝ、その收穫は食扶持以外、全部國家に

没収される、殊に此の時代は國內戦の行はれてゐた時のことゝて、自己の食糧さへも強徴收さるゝに於ては、怠けるも骨折つて稼ぐも結局得る所は同じである、否、汗水を垂らして働くだけが骨折損となるのであるから、農民が一向に努力しなくなつた。ロシアの小説にも見らるゝ如く、金持ちになることが農民の唯一の希望であり目的である、故に此の農民の心理を無視した政策が反對の結果を齎したのは寧ろ當然と云はねばならぬ。

商業にしても同様で、商店は國營であるから従業員は賣れ行が良からうと悪からうと一向に頓着なく、所謂士族の商賣で仕入にも運搬にも無駄や失敗が多い、又商品の貯藏、運搬等も自分の損得にならぬから注意が足らず破損もすれば腐敗もする、又品物があつても配給は順調に行はれぬ、況や前記の農業不振に加るに工業の衰微で、人民は金があつても物を買ふことも出來ず、完全に本政策は信用を失墜してしまつた。

工場に於ても右に述べた様な現象が現れた。無智な經濟知識のない労働者が工場の管理經營を行ふのであるから、資金の運轉は勿論のこと、材料の仕入も極めて拙劣、又工場勞

働者は働いても怠けても同様の工賃が貰へるのだから勉強しようとはしない、工場の機械器具の修理手入も怠りがちになる、此の儘に放置すればロシアの工業は破滅の外はなかつたのである。茲に於て指導者等も考へざるを得なくなつた、殊に爲政者として責任のあるものは、何とかして此の窮狀を打開しなければ自分等が永久に葬られて仕舞ふ危険があるので一大決心を以て政策の轉換を敢行した。これが新經濟政策の採用である。

新經濟政策より五ヶ年計畫迄

斯くして一九二一年レーニンは黨内理論派の反對を押し切つて所謂新經濟政策に轉換した。これによつてロシアの經濟は一時的に救濟されたのであつた。而して此の新經濟政策は明瞭に資本主義への退却である、即ち、農民に對しては穀物の無償徴收を廢止して買上を実施することゝし、その収入の多寡に應じて課税する方針を執り、又土地國有の名義は存したが土地の賃借を許し、農業労働者の雇傭をも認めたのである。商業に於ても勿論條件附ではあるが、個人營業を許したので、其の結果雨後の筍の如く個人商店が開かれ、物

資の配給も幾分か改善さるゝに至つた。又工場は大工場を除き、中、小工場を個人に貸與し或は之が個人經營を許した、工場労働者も又その技倆、勤惰によつて勞賃に等差を附する等の手段を講ずるに至つた。

此の新經濟政策は個人の所有慾の一部を満足せしめた點に於て相當の効果があつた、然しながらポリシエウイキはその本來の主義よりして全く資本主義的右偏政策を實施し通すことは出来ない、又新經濟政策で個人商業の一部をも認めることは認めだが根本方針として共產主義實現の意圖がある以上、個人商業に對しては依然相當の壓迫を加へた。而して又農民に對しても尙壓迫の手を緩めざる方針を持續し、過重なる累進的課税を實施した、斯くの如き状態であつたから産業の回復、發達は決して十分とは云へなかつた、則ち日に月に進歩しつゝある諸外國に到底及ぶべくもなく、このまゝに經過すれば總て世界の落伍者たるに至ることは明かであつた。又從來の如き對農民政策を以てしては到底政治的にも經濟的にも勞農政權の權威を維持することは不可能であると見られた。これがため遂にボ

リシエウイキはその主義の一部を放棄して更に右偏政策を實施するに至つた。即ちこれが一九二五年の新々經濟政策であつて、個人商業に對する行政的壓迫も停止し、農民にも雇傭耕作を許すこととした。

以上再度に互る政策變更の結果、ロシアの産業は漸く生色を呈し來り、彼の宣傳する處に依れば、農業に於ても工業に於ても大戰前の水準にまで漸く恢復し得たのであつた。

然し、この間、農村にはクラーク（富農）が、都市にはネツブマン（新經濟政策成金）が現れ、多分に資本主義的雰圍氣を醸成するの結果となつた、爲に一部黨員の間に斯の如きは革命の意義を没却し共產主義を冒瀆するものであるとの物議を生ずるに至つたが、之等に對してレーニンは、彼等を「左翼小兒病者」として抑壓して居たのである。然るにレーニンが死し、その抑壓が弛むと共に、政策問題に關して党内は騒然論議沸騰、黨中黨を生じて相對立するの狀態となつた。革命の元勳たるトロツキー、ジノヴィエフ等は左翼陣營を指導して新經濟政策を攻撃し、幹部派對反幹部派の抗争は一時サウエート聯邦の將來

をさへ危ましむるに至つた。其處で當局即ち幹部派は反幹部派に一大彈壓を加へその結果としてトロツキー一派の反幹部派は一掃せられたのであつた、然し幹部派も理論的には反幹部派に屈服せざるを得なかつた。元來、當局者と雖も共產主義者である、その同一主義者が一步一步と理想から遠ざかると云ふことは決して黨員を御する道ではない、黨員を統率して行けぬとなれば、失脚するより他に行くべき道はないのである。茲に於て幹部派たるスターリン一派は、前記反對派を彈壓驅逐したる後政策に變更を加へた。而も此の新に採用された政策は恰もトロツキー、ジノヴィエフ一派の唱へたその儘のものであつて、彼等反對派をして「スターリンは我等の政策を盗用した」と揚言せしむる程に左傾的の要素を多分に含んで居たのである。

斯の如き政策の變更は殆ど戦時共產主義時代に逆轉するものであつて一般民衆の反對を受くるは當然である。就中農民の反對は可成り猛烈であつた、又党内にも新政策に快からざるものがあつて一九二八年の終りから二九年の初にかけてロシヤの現狀に基礎を置く右

派(ブラヴィウクロン)の攻撃を受け、幹部派はこれが壓迫にも一苦心を免れなかつた、然しスターリン一派は恒に凡ゆる權勢と苦肉の策とを以て黨及國家機關の廓清を爲し黨の結束を固め、遂に一九二八年に至つて五ヶ年計畫と稱する産業經濟の建直しを標榜する大計畫を立案しサウエート國家の嚮ふ所を明にした。

五ヶ年計畫に就ては章を改めて詳述するが、要するに農村に於てはクラークを退治して貧農を糾合し、農村をソフォーズ(國營農)及コルホーズ(共營農)化し、農民も亦工場労働者の如く政府の權力の下に掌握し労働せしめんとするのである。又工業に就ては重工業に主力を注ぎロシヤを一躍工業國化し労働者の天下とする政治經濟を行はんとするものである。従つて曩に許されたる個人商業に對する壓迫の如きはその極に達し、目下に於ては全ロシヤに殆ど個人商人の影を絶つ有様となつた。

現共產黨員等はこの五ヶ年計畫を以て唯一の救國策、即ち彼等の理想實現の方途なりとしてゐる、近時党内に政策を右偏すべしと説くものがあつたが、その主張は脆くも葬り去

られてしまった。勿論、左偏政策にも幾分の幅がある、即ちこの幅員の範囲内に於て政策に多少のジグザグを示すことは想像し得るが、苟も共産主義者が政權を行使する限り彼等はその主義を放擲するものではない、共産主義を失へるロシアは決してサウエートではあり得ない。而してボリシエウイキ政權に於て左偏政策——その終局の目的は世界革命にある——が急激に右偏することは、殆ど豫想し得ない所である。何故なれば右偏は彼等の自殺であり、世界プロレタリアートに對する食言裏切りとなるからである。

サ聯邦の政策變遷の概要を比較すれば即ち左表の如くである。

サ聯邦政策變遷概見表

	一九一七年革命後(戰時共産政策)	一九二一年新經濟政策	一九二五年新々經濟政策
1. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依	1. 穀物の無償徵發を止め農民の租税以外の穀物の自由	1. 農民の行ふ小商業に對する農民の行ふ小商業に對する農民の行ふ小商業に對する	1. 農民の行ふ小商業に對する農民の行ふ小商業に對する
2. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依	2. 農地開發の爲農民に國有	2. 農地開發の爲農民に國有	2. 農地開發の爲農民に國有

業	農
1. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依	1. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依
2. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依	2. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依
3. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依	3. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依
4. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依	4. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依
5. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依	5. 農民の穀物に對する自由處分を禁じ政府は農民の自活用以外穀物を公定相場に依

みである。此の計畫遂行のため計上されたる國家の投資額は、約七、八百億留であつて、此の額は五年間に於ける國民總收入の三割乃至四割に該當する。

此の尠大なる計畫が發表せらるゝや、世界の各方面に多大のセンセーションを惹起し、特に經濟學者間には、その可能性の有無に就て各々見解を異にし、中には單にポリシエウイキ一流の宣傳であつて、空文に過ぎずと一笑に附し去つたものもあつたが、サウエート政權は計畫に基き、勇敢にその實行に邁進した。彼等は曰く「獨逸は彼の世界大戰に於て約七百億の戦費を投じ、克く五ヶ年間の戦争を遂行し得たのである。我々が五ヶ年計畫の爲めに投ずる資金は略々此の戦費に伯仲するものであつて、戦時氣分を以て實行したならば、不可能ではない。而して、この努力は吾等の理想とする社會主義的建設となつて酬いられるものである」と。

事實、彼等は現在學生の努力を以て、五ヶ年計畫を遂行しつゝあるのである。

今や計畫はその第二年度を終り、彼等の所謂決定年度たる第三年度に入つたのである。

而して、尠大なる工場は各地に建設せられ、鐵道は敷設され、農民は國、共營農業に入り、農村には多數のトラクターが送られ、國內は建設の氣分に滿ち滿ちてゐるやうであるが、一方に於ては物資の窮乏、能率の低下、經濟難、農民の困苦と不満、等、五ヶ年計畫の實行を阻害すべき幾多の障礙は次第に増加しつゝある傾向である。

五ヶ年計畫は果して何處に行くか？ 國民は克く此の困難に耐へ得るであらうか？ 幾何の程度の成果を收むるであらうか？ これ等の質問は興味あり又極めて重要な問題として、世の視聽を集めてゐるが、之が解決の爲には先づ五ヶ年計畫の一般に亘り検討するの必要がある。

計畫の概要

國家計畫部は五ヶ年計畫策定に際し二個の豫定案を作つてゐる。即ち、その一つは是非共達せんとする最小限の案で他の一つは狀況有利に進展せる場合、例へば、凶作或は國際關係等に依る障礙なき場合達せんとする擴大案とも云ふべきものである。本書では假に前

者を第一案、後者を第二案と名付ける。而して、この兩案の開きは約二〇%であるが、状況有利に進展せずして第一案で進んだ場合に於ては、六年間を以て第二案の目標に到達することになつてゐる。

五ヶ年計畫の爲に投下する資本は、第一案では七七二億留、第二案では九二一億留であつて、年度割の支出額は第一年度に於ては、約一〇三億留となつてゐる。爾後各年度の支出額は、その年度に於ける生産の増加に伴つて逐年増加し、最終年度たる一九三二—三三年度に於ける投資額は、二〇八億乃至二七七億留に達してゐる。又一九三二—三三年度に於ける國民總收入額は四四四億乃至四九七億留と豫定し、國家豫算中から國民經濟の爲めに支出せらるゝ率は一九二八—二九年度の二五%より一九三二—三三年度には三〇%に増大し、國民の私生活を向上せしめることを示してゐる。

五年間を通じて投下する資本の事業別は左の如くである。(單位億留)

第一案 第二案

	工業	電化	運輸	農業	其他	計
第一案	一四四	三一	八六	二一九	二九二	七七二
第二案	一六四	三八	九九	二三二	三八八	九二一

以上の如く五ヶ年計畫の實施による逐年の生産増加は建設事業の加速度的テンポを保證するものであつて、此の生産と建設との間には複雑なる關係を有してゐるのみならず、經濟の各部門に於ても各々密接不離の關係を有するは明かである。

例へば、一紡績工業を興さんが爲めには、其の生産力は需用數量を考慮するは固より、その原料たる綿の生産、輸送、工場設備に要する機械類の製作購入、電力の取得、労働者養成等其他有ゆる部門に亘り交渉を生ずるのである。従つて、各部門の統制ある發達を必要とするのであるが、就中、五ヶ年計畫の基礎をなし、その眼目たるものは、工業殊に

重工業であつて、之が發達には絶大の努力が拂はれてゐるやうである。

重工業計畫の展望

ロシアの工業は、帝政時代既に他國に比して遅れてゐたのであるが、革命の際に著しく破壊せられた。のみならずラトヴィア、波蘭の獨立によりロツヅ、リガ等の工業地帯が失はれたる爲愈々悲境に陥つた。サ聯邦當局は之に鑑みる處あつて、五ヶ年計畫に於ても、「追ひ付け、追ひ越せ」の標語の下に最大の努力を拂つてゐる。彼等の所謂工業立國とは、最も廣汎なる意味に於て工業を經濟の重點たらしむる外、之を農業にも適用せんとするのである。即ち農場をも一工場と見做し、農民は労働者と同様、賃銀を得て農業に従事し、馬鈴薯や小麦を生産する労働者たらしむるの組織を包含してゐるのである。

五ヶ年計畫に依る工業發達の爲の投下資本は、前にも述べた様に一四四—一六四億留である。此の額は過去五年間に於ける工業に對する投資額四四億留に比すれば、約三—四倍の巨額に上るものである。而して、最終年度たる一九三二—三三年度に於ける工業總生産

額は一四〇億乃至一五〇億留に達することを豫定してゐる。次に工業各部門に於ける計畫の概要を述べれば左の如くである。

電化事業

嘗てレーニンは「全國が電化されねば共産主義は行はれない」と云つた。従つて、彼の言葉を神の託宣の如く受け入れるボリシエウイキが、何を偕て置いても電化に努むるは當然である。五ヶ年計畫に於て電化事業は工業のみならず、農業方面に屬する灌漑事業にも及ぶ爲、多大の努力が拂はれてゐる。即ち、一九二七—二八年末に於ける全發電力は、六〇萬キロワットであるが、一九三二—三三年度の終りには三七〇萬キロワットに達せしめんとするのである。夫は計畫實施前の全動力即ち動物及機械を含む動力の九、五%であるのを、五年後には二〇%迄引上げる豫定である。之に要する資金として第一案では三一億留第二案では三八億留を計上してゐる。

本計畫に基き水力及火力による發電所は、各地に建設せられつゝあるが就中、大規模な

るものは南露ドネプロベテロバウロスク附近に於て、ドネブル河の水力を利用する発電所で、完成の曉には三三萬キロワットの電力を供給することになる。之は歐洲に於ても有数の大発電所である。

燃 料

燃料中重視せられてゐるのは石炭及石油であるが、當局は燃料經濟の爲、原則として次のことを計畫してゐる。

(イ) 燃料の消費量を工業に於て二五%、運輸事業に於て一〇%遞減する。

(ロ) 燃料特に石炭、泥炭、石油の産額を増大する。

其生産發達の計數は次の如くである。

	一九二七—二八年度	一九三二—三三年度	増加率
泥 炭	七二〇萬噸	一、六〇〇萬噸	二二二%
石 炭	三、五五〇	七、五三〇	二一二
石 油	一、一七〇	二、一七〇	一八五

石炭坑としてはウラル、莫斯科近郊、東部及中央シベリヤ、高架索等がある。其の最も大なるものはスターリングラード附近のドン河に沿ふ地帯に存在するドン・バスであつて全生産額の七七%を占め、之に次ぐものはノウオシピリスクの東南露支國境方面にあるクズ・バスであつて、全生産額の七%を産出し、埋炭量の豊富なるが爲、(全聯邦の八割六分)將來に於て注目せられてゐる。因に、昭和三年度に於ける日本の石炭産額は約三千萬噸である。之等石炭工業の爲、支出せらるゝ資金總額は一二億五〇〇〇萬留を計上してゐる。

次に石油は産額を増加するのみならず、之を加工精製することに努めてゐる。石油の主産地は有名なるバクーの外、グロズヌイ、エンバ等、高架索及裏海の沿岸の地であつて、之を黒海及ウオルガ等の水運により海外に輸出する爲、バクー——バツム、グロズヌイ——トウアプス、エンバ——サマラ間に送油管の敷設を豫定してゐる。又石油工業の爲、支出する資金は一一—一四億留である。

製鐵及機械製作工業

サ聯邦工業立國の成否を左右するものは製鐵業である。併しながら、製鐵工業は甚だ幼稚であつて到底他の工業發展に伴はぬ現況である。従つて五ヶ年計畫に於ては最も之に力を注いでゐる。即ち、工業投資額の内、其の四分の一に當る約四〇億留を支出する計畫である。現在全國の鐵消費量は四〇〇萬噸に過ぎないが、一九三二—三三年度には九八〇萬噸に達する豫定である。従つて、鐵の年産額を三三〇萬噸より一、〇〇〇萬噸に達せしむる計畫である。此の數は一九二八年に於ける佛國の鐵生産に該當する。而して、生産増加の爲には、ウクライナ・ウラル地方の製鐵工場の改善、ケルチエンスキー半島（クリミヤの一部）並クズネツク附近の鑛山を開發することになつてゐる。

尙鐵に附隨して、卑金屬の探掘も從來の約二倍に増加せしめんとしてゐる。其の結果は左の如くである。

銅
一九三二—三三年度
八五千噸

亞 鉛 七七
鉛 三八
アルミニウム 五

而して卑金屬開發の資金は五億留である。

次に機械製作工業は、最後の目的として、大小機械を自給自足し得るの方針の下に計畫せられてゐる。之が投資額は約一〇億留となつてゐる。其の内、最も特筆すべきものは自動車であつて計畫によれば、ニジニノヴゴロド附近に新設される自動車工場は、年約一〇萬臺の自動車を製造し得る施設をなしつゝある。之には米國より多數の技術家及四、〇〇〇萬弗の資本を入れてゐる。

又農具の生産高は六億一〇〇〇萬留に達せしむる豫定であつて、ロストフ、ウクライナ地方に尠大なるトラクター工場の建設を計畫しつゝある。その他建築材料、セメント、鐵材、紡績、製織、化學工業機械等も、最初の試みとして計畫せられてゐる。又化學工業に於

ては肥料の製造に最も注意してゐる。その他木材を原料とする工業即ちセルロース製紙、人造絹等は、原料の無盡蔵と相俟つて夫々偉大なる發展が豫想せられてゐる。

農業と運輸

農業改良の爲投資せらるゝ額は、約二二〇億留にして、其の生産額は一九二七—二八年度の七、〇〇〇萬噸から約一億噸に、耕作面積は一億一〇〇〇萬ヘクターより一億四〇〇〇萬ヘクターに増加する豫定である。

農業改造に就ては、前に述べたやうに農村の社會主義化を企圖し、之が爲には、國營農、共營農を極力奨励すると共に、富農の撲滅を企てたのである。國營農とは國有の土地に國家が農業を經營し、農民は全く工業労働者と同様なる關係に置かるゝものであつて、共營農とは農民が、土地、農具、家畜を持ち寄り共同經營するもので、之による收穫は農具勞力等に應じ、夫々分配するものである。又其の収益の分配、穀物の賣却、トラクターステーションよりのトラクターの借受等は、組合が擔任するのである。

最初の計畫では、國營並共營農は全農耕地面積に對し、一九二七—二八年度の二%より一九三二—三三年度には一八%に増加する豫定であつたが、實施後の情勢に鑑みれば、國、共營農の比率が著しく向上せられたのである。

農産物の收穫を増加する爲には、耕地面積を増し、耕作法を改善することが必要であるが、之が爲には、大農法の採用及農業の工業化に俟つものが大である。當局は、この方針を極力高調してゐる。而して、五年後には、トラクターを一七萬臺に達せしむる豫定である。斯くて農業に於ては、小麥、甜菜等の食料品の外、棉花其他家畜の増加を企圖してゐる。

次に、運輸に就ては、漸次増加する生産品の輸送、その他政治的意義を以て、約一〇〇億留が投資せられる。鐵道水路の改善及建設には特に力を注ぎ、就中鐵道に就ては、延長七五、〇〇〇軒より五年後には九三、六〇〇軒に増加し、之に應ずる施設並鐵道の電化を豫定してゐる。(民間航空の計畫に就ては後述する)

社會主義的見地よりの觀察

以上は、五ヶ年計畫の極く概要であるが更に此の計畫を社會主義的經濟建設の見地より觀察するに、計畫終期に於ける社會主義化事業の比率は、次の如く豫想せられてゐる。

區分	社會主義組織		個人經營
	國營 組合	六三、五 五、三	
資本	六八、八%	三一、二%	
労働者	八四、〇	一六、〇	
經營者	一八、〇	八二、〇	
農	九二、〇	八、〇	
工	九一、〇	九、〇	
商	六七、〇	三三、〇	
國民收入			

計畫は如何に實施せられつゝありや

然らば五ヶ年計畫は如何に實施せられたかと云ふに、最初發表せられた基本の計畫は其の都度、實施の間に於て現況に合致する如く逐次改編せられ、而も其の進度を向上した。

即ち、第二年度の成績として政府の發表してゐる所は次の如くである。

第二年度の成績 (但一九三〇年九月三十日に於ける)

一、國民の總收入	三二七億留
二、工業	八九億留
總生産	(前年度に比し、二四% (内重工業は三八% (増加))
電力	三五〇萬キロワット
石油	四、五七〇萬噸
石炭	一、七一〇萬噸
鐵	五〇〇萬噸
セメント	二、四〇〇萬樽
三、投資	
工業	三一億留
發電	六億留
農業	一八億留
運輸	一六億留

其の他	四四億留
計	一一五億留
四、農	
穀物總産額	八、八〇〇萬噸 (前年度に比し二二%増加)
蒔付總反別	一四、〇〇〇萬ヘクタール (前年度に比し七八〇萬ヘクタール増加)
社會主義化農業	
共 營	三、八〇〇萬ヘクタール
國 營	四〇〇萬ヘクタール
計	四、二〇〇萬ヘクタール (全農の三〇%)

尙、本年一月開催せられたサ聯邦中央執行委員會第三次會議に於て、國家計畫部長クイ
ブイシエフは計畫第三年たる一九三一年度の國民經濟計畫に關する報告演説をなした。其
の際、新年度の目標として發表した主なる數字を擧ぐれば左の如くである。

國民總收入	四九〇億留
石 炭	八、三五〇萬噸
石 油	二、五〇〇萬噸
電 力	四五〇萬キロワット
鋼 鐵	八八〇萬噸
トラクター	一〇萬臺
耕地面積	一四、三〇〇萬ヘクタール
國、共營農	全農の五〇%

右の數字に依ると、第三年度に於ける計畫は、五ヶ年計畫最終年度のものに肉迫して
ゐるのみならず、石炭、石油等の生産額は之を凌駕してゐる。

又同會議に於て、人民委員會議長モロトフは

「第三年度に於ては、社會主義的建設の大なる發展を遂げんが爲に多大の努力を要する
が、今年の國民經濟に於ける社會主義化部門の進歩は特に重大性を有するもので、其の
割當は、昨年の七割五分に對し八割二分である」

と述べてゐる。

サ聯邦の今年度の豫算を概見するに、國家歳入總額は三二〇億留であつて、國民總所得四九〇億留の三分の二を占めてゐる。新聞に公表せられた豫算案の概要は左の通りである。

歳 入	
社會化する國民經濟の自己財源	一三三億留
租 稅 收 入	一一〇
國營保險其他	七七
計	三二〇
歳 出	
國家經濟支出	二一〇
文化的建設費	六五
其の他	三〇
豫備金	一五
計	三二〇

従つて、一九三一年度の歳入の九割迄は經濟的及文化的建設費に充當せられるのである。

右に述べたる數字の内、五ヶ年計畫の成績に關するものは疑はしきものが少くないのであるが、兎に角、相當の進歩をなしつゝあることは窺はれるのである。又實際に於て、今迄なかつた大工場が、所在に建設せられ又起工せられつゝある。莫斯科近郊、ウラル、ウオルガ流域ウクライナ等の工業地帯の發展は特に目覺ましきものである。

就中、彼等の最も誇として、内外に宣傳しつゝあるものはトルクシブ鐵道の完成であつて、此の鐵道は中央亞細亞のカザクスタン共和國とキルギス共和國との國境たるルゴワヤより西伯利とキルギス共和國との境界セミバラチンスクに通じ延長一、四〇〇軒即ち凡そ東京—鹿兒島間の距離に等しき延長を有し、セミバラチンスクに於て既設線に連接するものである。此の建設は豫定よりも、一年早く昨年五月開通するに至つた。之に依り、サ聯邦は年々一億數千萬留の輸入を仰ぎつゝありし棉花を同地方に栽培することに依り、そ

の輸入を免がれ、又中央亞細亞に缺亡せる木材、穀物を西伯利地方より輸送し、水利不便の爲同地方の困難とする穀物植付を棉花に變へしむる如き經濟的意義を有するものである。又既に述べたるドネーブルの大發電所の如き（其他の施設）も其工事を進め約七割の建設を終つたと稱せられてゐる。又トルクシブ鐵道、ドネーブル發電所と共に三大事業と數へらるユウオルガ——ドンの運河開設事業は、スターリングラード附近に於て兩河の距離約五十軒の處に運河を開鑿しドントウオルガの兩河を十二個の水門によつて連絡するのであつて、此結果、莫斯科附近及ウラル地方と黒海との水運を得んとするものである。該工事が現在幾何の程度に達成したかは明瞭でないが兎に角其の工事の進められつゝあることは事實である。

尙、最近サ聯邦政府機關紙イズウエスチャは米國のネイション紙上に載せられた著名の政論家ルイ・フィシエル氏（「重油界の帝國主義」の著書）の滯露十二ヶ月間の感想記を紹介して居る。勿論サ聯邦機關紙の記事であるから我田引水の傾はあるが、五ヶ年計畫の

進捗及ロシヤの現状に對する一の樂觀的考察として茲に紹介する。

一九二八年十月作製された通りの計畫が果して履行されるであらうか如何と問ふものあらば、余は即座にイエスと答へるものである。五ヶ年計畫がその内容以上を、しかも四ヶ年間に完成されんとし實に九〇%か一一五%達成と言ふ勢ひで進行してゐる。

又五ヶ年計畫が豫期の方針通りロシヤを迅速に工業國家たらしめるだらうかとの質問に對しても余はイエスと答ふるものである。かくの如き偉大なる事業遂行には、勿論幾多の支障、困難が伴ひつゝあることは事實である。而しそれは活氣ある新銳勢力にあり勝ちの缺陷であり若いサウエート・ロシヤの強味もそこに存するのである。今日まで十三年の間我等は「ボリシエウイズムは六ヶ月の後には失敗する」との豫言を聞かされ通してあつたが、今日では「ボリシエウイズムは資本主義社會の存在を危ふする程の有力なものである」といふことを自覺せればならなくなつた。銀行家や工業家は非公式の會合の席上露西亞相手の仕事は危ないと語り、また新聞紙、議員及職工達は近き將來サウエート商品が世界市場に充満するに至るべく自ら世界革命が實現するに至るであらうといつてゐるが、何れにしてもサウエートの威力を恐るる事に於て變りない、然し此等はやがてサ聯邦の眞相を語るやうになるであらう。

計畫に伴ふ幾多の障礙

上述の如く、五ヶ年計畫が進められつゝある一方に於ては、各方面に幾多の困難が伴ふのは當然である。其の最も顯著なるものは深刻なる物資の缺乏であつて、昨一九三〇年度の初頭以來特に甚だしきものがある。

現在ロシアを旅行する者は、此の國民生活の窮乏の豫想以上に甚しいのに驚かざるものはない。食料品を販賣する國營商店の前には、市民が蛇々長蛇の列をなし、毎日の食物を求むるのに半日或は一日を要するのを目撃する。中には買取ることの出来ない者もある。日用品は煙草、紙等に至る迄缺乏し衣類、靴等は修理に修理を加へて使用してゐる。又昔はロシアに旅行する者の土産としては、絹靴下、ハンカチ等の贅澤品を携行して行つたのであるが、現在では紙、砂糖、石鹼その他の日用品が喜ばるゝと云ふ有様である。要するに、國民生活の現狀は如實に悲惨なる状態を現出してゐる。此の状態を目撃したものは、新經濟政策前の窮狀を想起せしめられる。而して、遂に悲觀論者はロシアは破滅すると考へる者も尠くない。

併しながら、此の物資缺乏の原因は國內物資の不生産から來るのではなくて、五ヶ年計畫の實施に伴ふ一つの大なる犠牲である。更に解説すれば、此の大計畫實施の爲には、多大の外國資本を要するが、之が爲には國內の物資を輸出して外資輸入の資に充てる必要がある。此の大計畫實行の前には國民の苦難の如きは一時忍ぶべし、と言ふのが當局の腹である。

サ聯邦の外國貿易は國營であるから、此の如き計畫を實施するには、誠に好都合である。今戦前並最近数年間の貿易額を示せば左の如くである。

輸出入	一九一三年 (戦前)	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
輸出	一四二・一〇〇 <small>萬留</small>	六八・五〇〇 <small>萬留</small>	七七・〇五〇 <small>萬留</small>	七四・九〇〇 <small>萬留</small>	八四・六〇〇 <small>萬留</small>	
輸入	一二二・二〇〇	七三・〇〇〇	七一・二六〇	九二・四〇〇	八一・三〇〇	
計	二六四・二〇〇	一四一・五〇〇	一四八・七六〇	一六七・三〇〇	一六五・九〇〇	

右の數字に依つて見れば、貿易總額は未だ戦前の夫れには及ばぬけれども、輸出入のバ

ランスは概ね平衡を得てゐる。

又サ聯邦の主要貿易國たる獨、米、英三國との輸出入景況は一九二八—二九年度に於て左の如くである。

	對サ聯邦輸出	サ聯邦ヨリ輸入
獨逸	一八八・四六五・〇〇〇留	二〇八・五三七・〇〇〇留
米	一五二・九二五・〇〇〇	三八・四六九・〇〇〇
英	四四・三三八・〇〇〇	一九二・五〇二・〇〇〇

サ聯邦より輸出する主要なるものは、穀類、家畜、魚類、毛皮、木材、石油等で、輸入の主要なるものは、鐵類、機械類、棉花等大部分五ヶ年計畫に直接間接の關係のあるものである。

サ聯邦は此等の輸入品に對し、半年乃至一年の信用期間を以て支拂をするのであるが、其の資金を得る爲に之に應ずる物資即ち石油、木材、石炭等の天産物は勿論、穀類、卵、鶏等に至る迄、國民に必要な分を残し——其の分量が國民の満足し得るものなるや否や

は別として——其の他を舉げて國外に輸出してゐる。又運輸の梗塞等に起因して物資配給の圓滑に行はれないことも固より缺乏の一因となつてゐるのであつて、此の物資難は生産の減退に原因してゐるものでないことは前述の通りである。

次に起りつゝある問題は財政上の困難である。紙幣濫發による信用低下、補助貨の缺乏並公債の濫發、其の賣買禁止等の結果、金融の杜絶を來し現金取引を中止して居る所も多數あるのである。是亦悲觀論者がサ聯邦は財政上の問題より破滅するであらうと、觀察する所以である。併しながらサ聯邦の政治組織が獨裁的であつて、如何なることをも斷行し得る状態であるのに鑑みると、必ずしも悲觀說にのみ同意し難いのである。

今假りにウラル山脈を掘つて數百萬留の石炭が得られたとするならば、之を國營貿易により輸出して精油機械に換へ、之で石油工業を擴張することが出来る。而して次の年にはウラル炭坑及精油から利益が舉がり此等を更に他の企業に廻す。かくて年々事業は擴張されて行く。此の間、政府は勞働者に紙幣を以て賃銀を支拂ふ。此の紙幣は正貨準備なく形

を換へた切符同様のものであつて、對外的には價值がないにしても、内地では之と引換に物資が——制限せられた量ではあるが——自由に購買が出来る。國民必需品たる食糧や衣類日用品は國家に於て紙幣を以て買占めるか、又は製造して國民に賣つてやる。又紙幣増發により流貨が膨脹したときは、富籤附公債（無利子）を以て國民の射利心を煽り、又は強制的に購入せしめて通貨を回収して行く。即ち労働は無償にて産業を發達せしむることが出来る。國民には必要の最小限を與へ他は生産の資本として任意の方面に使用し得るのである。

第三の問題は經濟組織に起因する障礙であつて、即ち官業による能率低下の問題である。諸工場に於ては計畫に基き所命の數量を製作するに努力する、若し數量を誤るときは上司より直に叱責されるからである。併し其生産費、品質の良否等は多く顧みないと云ふ如き事件は枚擧に遑がない。又諸官廳は官僚主義であつて繁文褥禮、計畫書類や種々の書類が山をなす光景である。一方労働者連中は、仕事に六ヶ敷なれば直に失業する、失業しても

失業保險が貰へるから、此の間に樂な方面に仕事を搜すと云ふ様な状態であつて、能率の低下は自然の勢であり、生産の減退を惹起するのである。又所有慾の到底失せない農民達は、國、共營農に不平を抱く者も多數に上り、努力を吝み家畜を殺す等、所謂消極的抵抗を試みるものも少くない。

此等に對し政府は競争の方式を以て勞農民の競争心を刺戟し、又昨年度よりは五日週間の制度を採用して、各労働者及幹部は交互に休むが、工場、商店等はレーニンの命日に一日、メーデーに二日間及革命記念日に二日間、合計一年に五日間の外は全々無休とし、全般としての能率の向上を計りつゝある。又昨年三月頃スターリンは命令を下し國、共營農への強制加入の手を緩め、其の加入は本人の希望によることとし、之が爲一時六〇%まで達したる國、共營農は三〇%に減退した様な状態である。

是等の事象に就いてボリシエウイキは、之は共產主義の教育が徹底せざる今日に於ては已むを得ざることであつて、將來教育指導に依り改善し得るものである、現に革命以後に

育ち共産主義的教育を受けたる青年等は衷心から共産主義を謳歌し、五ヶ年計畫遂行のため、献身的援助をなすつゝあるではないか、と稱してゐる。

尙、經濟組織の問題と關連して生ずる疑問は各部門の連繫である。此の問題に關しては、前に一部述べたのであるが、今日五ヶ年計畫を觀察する者の中には、五ヶ年計畫により諸建設が出来ても、各部の連繫が取れ其の生産機能を十分發揮するに至るは遠き將來であらう、殊に杜撰なる露西亞人の本能からして其の虞れが多い、と唱へる者が少くない。此の問題は頗る重要である。事實此の傾向が増大せることは政府も大に頭を悩ましてゐる。之が爲最近中央執行委員會の決議で、内閣に直屬する施行委員會なるものを設置し、人民委員會議長モロトフを首班とし經濟各部の連繫及命令實施の監督に任せしむることになつたのである。

五ヶ年計畫の將來及反映

現在迄の過程に於て、五ヶ年計畫が幾何程度の成果を收むるやに就て、正確なる結論を

なすことは何人と雖も困難であらう。併し其の立案の基礎には相當の根據があり、之に伴ふ障礙は必ずしも之を排除するの可能性があるではない。又現在までの實施の景況に徴しても侮り難きものがある。元來サ聯邦は自給自足し得る豊富なる天然資源を有する。國民は忍耐力に富み、宿命的に強者に服従するの國民性を有し、政府の云ふがまゝに動く國民である。此等の點を考へると五ヶ年計畫は相當の成果を收むることが豫測せられ、五年が六年乃至は十年に延びたとしても、終には豫定の目標に到達することが出来るのではなからうか。偕て五ヶ年計畫が出来上つた場合には、世界各國に如何なる影響を及ぼすか。其の増加せられたる生産力は直に經濟戰の武器として使用せらるゝものと考へられる。即ちダンプینگ(投賣)による市場攪亂である。現に此の問題は昨年世界市場に一大衝動を惹起してゐる。米國シカゴに於て約七五〇萬ブッシェルの小麥が投賣された結果、市價は忽ちブッシェルに付き九九セント八分の一から九四セント八分の一に下落し、又英國に於ても最近小麥がロンドン、リバープールの市場で、一クオータにつき三二シルといふ様な驚異的

安價を以て投資せられた爲、數年間暫く四二シルを保つて居た英國の小麥市場は、致命的打撃を受け未曾有の混亂を呈したと稱せられる。佛、伊、希、羅、波等の諸國も亦同様の影響を受け、其の他各國は穀類、マッチ、石炭等のダンピングに悩まされた。之が爲諸國は相謀つて其對抗策を講じ、漸次不買同盟に迄進み佛、羅、匈の如きはサ聯邦の投資的輸出品に對し、最高度の防止關稅率を適用して斷然之を禁遏することゝした。國際聯盟でも反サ經濟戰線の擴大に迄反映して、東歐諸國に對する特殊借款を討議する等、列國の對サ態度は愈々尖鋭化するに至つた。これに對しサ聯邦當局は此の如き行爲は資本主義國家がサ聯邦の發展を恐れてなせる經濟的、政治的反サ結合なりと自國內にて宣傳してゐる。其報復手段として、サ聯邦の貨物輸入を妨害する國に對しては、

- 一、當該國に於て購買又は注文することを禁ずる。
- 二、當該國所屬の船舶の備船を禁止する。
- 三、當該國よりする輸送貨物に對し、聯邦内の輸送並港灣及船舶の利用を禁止する。

ことを命令した。

右のダンピングは元來列國の市場破壊を目的としたものでなく、サ聯邦が資金を求むるに急なるの餘り安價をも厭はず外國に輸出したものである。併しながら五ヶ年計畫完成の曉にはサ聯邦は國營貿易の有利なる條件と組織とを以て所望の方面に計畫的にダンピングを実施することあるを豫期せられる。之に對し各國に於ては取締を行ひ或は不買同盟の如きも構成せられるかも知れぬが、サ聯邦當局は、資本主義國家は各々利害の不一致から決して共同戰線に出づるものにあらずと多寡を括つてゐる。而してサ聯邦と親交ある國家或は利に聰き國民の裏切等の生ずるが如き場合に於ては、世界市場は忽ち混亂を呈するに至るべく、誰かサ聯邦が此の機に乗じて赤化宣傳を併用し世界革命の機運を醸成するに努むることなしと言ひ得るであらうか。殊に支那を重要市場とする英國、日本等に於ては此の點に關しては大に考慮を拂はねばならぬのである。要するに五ヶ年計畫の將來に就ては、單に之を机上の空論的計畫として一笑に附せず、其の進展過程に對し常に注視を怠ること

は出来ないのである。

尙、又、假りにサ聯邦の五ヶ年計畫が將來完成さるゝとしても、斯る計畫が他の諸外國に應用し得るか否か、少くとも歴史的及地理的事情並國民性の著しく異なる我が國に於ての實行は到底不可能と斷ずるの外ない。

第三章 五ヶ年計畫と國防

赤軍はサ聯邦の楯であり世界革命の前衛である

勞農赤軍はサ聯邦防衛の楯であると共に世界革命の前衛であるとは、レーニンの常に高唱した所であるが、經濟建設五ヶ年計畫の策定に當り國防の充實を重要項目の一として居るのは蓋し當然である。従つて五ヶ年計畫が重工業偏重主義を採り併せて極力軍需工業の振興に努めて居るのも亦無理からぬ處である。之がため輕工業は動々もすれば計畫に副はず國民生活を脅威せんとしつゝある現況である。更に之を裏書きするものは、聯邦サウエート第十六回大會に於て、

- 一、經濟獨立並國防増進の爲工業化發展速度の迅速なるを必要と認む
- 二、工業發展上第一義的に重要な任務はサ聯邦國防力増加に必要な工業を發展せしむるにある

と決議してゐることである。

現に、サ聯邦上下の國防問題に對する態度は極めて眞剣で、資本主義國家は對サ聯戰爭準備をなしつゝある等の記事を新聞に連載して一般民衆に國防の必要を宣傳して居る。國民も又對資本主義戰爭は免れざるものと確信して居る状態は孰れの國に於ても見る事の出来ない現象である。而してその國防方針は單なる國家防衛にあらずして所謂世界革命を企圖する國策に順應せるもので、従つて五ヶ年計畫が國防の充實に重きを置くのは自明の理である。現に一九二九年發布の野外教令に於ては「赤軍は、サ聯邦の防衛に任ずると共に、その存在の事實を以て全世界に於る被壓迫勞民の自由解放に對する闘争を支援するものとす」と述べてゐる。

而して國防充實のため經濟建設五ヶ年計畫の進展に伴ふ如く國防五ヶ年計畫が樹立せられて居るのである。これによればサ聯邦の國防施設をして現代に於る世界の情勢に應ずる如き最新且最強力の武力の構成を主眼とし軍の機械化、化學戰に對する裝備の完成、航空

兵力の擴張等に全力を注いで著々進んで居る。

サ聯邦の軍事豫算は昨年度に於ては一億六〇〇〇萬留であつたが、本年度に於ては約十九億に達して居る、ボリシエウイキは國家總豫算に對する比率を擧げて、各國のそれよりも極めて低率なることを誇りとして居るが、元來サ聯邦の豫算なるものは各國に於ては個人企業に屬する商工業の如きものも全部國營とせられてゐる關係上、總豫算は著しく尠大となつて居るのであつて、之と軍事費との比率を列國と同様に求むるときは其の比率の低下を示すことは當然であつて、斯かる標準に於て比較せんとすることが無理である。而も右の軍事費の中には軍需工業費及營繕費の如きものは含まれて居らぬのであるから、之を加ふるときは更に大なる數字となることは明瞭である。

軍備の概観

サ聯邦の現有陸軍兵力は正規軍及民兵軍基幹人員約五十六萬二千、民兵軍兵卒約四十萬及國家保安部軍隊(ゲ・ベ・ウ)約十三萬、合計約百九萬二千と云ふ尠大なものであつて師

(旅) 團の数は左の如くである。

歩兵	正規師團	二九
民兵師團	四二	
計	七一	
騎兵	正規師團	九
民兵師團	三	
獨立旅團	九	
計	十二	
師團	九	
旅團	九	

又その編制裝備の大要を述べれば歩、騎兵共に軍團編制であつて、歩兵軍團は歩兵師團二乃至四及軍團直屬重砲兵聯隊等の特科部隊を以て編成せられ、歩兵師團は歩兵三聯隊、師團砲兵聯隊その他の特科部隊より成る。又騎兵軍團は騎兵師團二及裝甲自動車隊を基幹とし、騎兵師團は騎兵旅團二乃至三及騎砲兵大隊二を有し、騎兵旅團は騎兵聯隊二よりなる。

獨立騎兵旅團にあつては騎兵三聯隊及騎砲兵大隊より組織されてゐる。各單位部隊の自動火器及火砲の裝備は左表の如くであるが、之を列強軍に比較するも敢て遜色なく殊に自動火器の裝備は極めて優秀である。

△赤軍歩兵部隊裝備

中隊	大隊	聯隊	師團	軍團	自動火器		步兵砲	火砲
					輕機關銃	重機關銃		
六	一八	五四	一六二	略す	一〇八	一八	野砲三六	十二糎榴彈砲
二	一二	三六	略す	略す	略す	六	野砲	十五糎榴彈砲
								十糎加農
								九

△赤軍騎兵部隊裝備

(師團以下に屬するものを除く)

中	聯	旅	師	軍
隊	團	團	團	團

自動火器
輕機關銃 八
重機關銃 |

三二	一六
六四	三二
一九二	一一二

火炮及裝甲自動車

騎砲三	騎砲六	騎砲三〇	裝甲自動車九乃至一二
-----	-----	------	------------

(師團以下に屬するものを除く)

略す

民兵軍と稱するのは幹部以下正規軍と同一基礎の下に成立してゐる基幹部隊と、之により教育せらるゝ民兵軍兵卒より成り、其の教育は第一年度に三ヶ月、爾後の現役四ヶ年間に五ヶ月乃至八ヶ月の間教育を受けることになつてゐる。従つて素質の點では正規軍に劣るが、その編成、裝備は正規軍と同一である。又國家保安部軍隊と云ふのは、内務人民委員會(内務省に相當す)に屬し、反革命の取締り、國境、海岸の警備、交通線の守備に任ずるものであつて、師團以下の獨立部隊に編成せられ裝備訓練等は正規軍と同一若は夫れ

以上である。

世には往々にして現在に於ても尙、赤軍を目して自由主義教育を施された軍紀の自由な軍隊であつて、戰爭遂行力に乏しいものであらうと考へる者もある、が事實は全く之と正反對である、今その一例を擧ぐれば、上下の秩序整然、嚴格なる軍紀が存在し、軍隊教育に於ては精神教育、即ち共產主義的教育を以て最も重要な鐵則として飽くまでこれが徹底を期し、正規教育時間の約三分の一と業間時間の殆ど全部とを費し深刻なる教育を施し、その他の軍事的訓練に於ても又可なり整備して居る。一方赤軍兵卒は一般市民に比し多くの特權を有し、従つて士氣は頗る旺盛であるからその精神的の價値は決して輕視することは出来ない。

以上の如く、サ聯邦が革命後短時日の間に量に於ても又質に於ても強大なる軍備を整備し得たことは驚嘆に價するものがある、而して現在國防五ヶ年計畫により如何に軍備を充實しつゝあるか、以下これを觀察しよう。

軍の機械化

第一に注目すべきは軍の機械化である。軍の機械化とは軍隊に機動性を附與し、或は自己の掩護を増強してその威力を發揮する爲、戦車自動車等を配屬し、或は更に進んで速力攻撃力及防禦力の三要素を備へた所謂機械化兵團なる特種の部隊を編成するのを謂ふのである。

サ聯邦に於てはこの目的の下にその骨幹となるべき戦車、装甲自動車の充實を計り、現在戦車聯隊三、獨立戦車大隊四及若干の獨立戦車中隊等あり、合計三百五十臺の戦車並多數の装甲自動車を有して居る。此等の戦車は從來外國より購入したものであつたが、近時サ聯邦型戦車を製作する域に達し、その數も漸次増加されつゝある。又數年前迄は此等戦車、装甲自動車を臨時編合して機械化兵團を編成し演習等に參加せしめて居たが、昨年首都莫斯科に於ては戦車大隊二、装甲自動車隊一、車載せる砲兵大隊、機關銃隊及歩兵大隊、化學隊等よりなる常設の機械化旅團を編成し、機械化兵科として獨立の兵科を設定するに至

つた。その他レニングラード、白露、ウクライナ方面の軍管區に於ても此の種部隊が常設せられて居る模様であつて、その他砲兵部隊の動力牽引等も漸次その緒に就きつゝあるとのことである。

軍の機械化は、五ヶ年計畫に於て赤軍の標榜する方針中の第一に擧げらるゝものであるから、今後工業能力の増進に伴ひ如何なる程度にまで擴大せらるゝかは逆睹し難いものがある。

化學戰準備

第二は化學戰に對する準備である。赤軍に於ては已に久しい以前から此の準備を行つてゐたが、最近特にその充實を企畫して居り、現在化學部隊としては化學兵器研究所六、化學兵器製造所四、化學戰學校二、化學聯隊一、獨立化學大隊三を有し、その他各兵種の聯隊には化學小隊があつて、主として瓦斯の防衛に任じて居るが、一部撒毒の機關をも有して居る。又防毒マスクの如きも殆ど全軍の兵卒に普及し、平時の演習に於ても之を装着し

て各種の戦闘動作を訓練し、或は聯隊には瓦斯室を設けて之に覆面を装せる兵卒を入らしめ毒瓦斯を充填して、覆面装着の適否並防毒面の良否を實驗すると共に、瓦斯に對する精神的訓練を施す等、實際的にして且眞剣な訓練が行はれて居る。右の外、化學戰に於る準備として、前述の五ヶ年計畫中の化學工業の部門に於ては毒瓦斯原料の生産増加に特別の注意が拂はれ、又將來戰に於ては必ず空中よりする瓦斯攻撃を受くることを豫想し、國防飛行化學協會等の公共團體と協力して瓦斯防護に對する一般民衆の訓練に努める等、その用意の周到なることは實に驚くべきものがある。

空軍の擴張

第三は空軍の擴張である。サ聯邦に於てはその劣勢なる海軍力に鑑みこれを補充する見地に於て空軍の擴張を計つて居る、殊に近時航續力の大なる飛行機及航空船の製作に意を用ひてゐることは我が國防上大いに考慮を要する點である。

其の兵力は昨年初頃に於て約百二十中隊、千二百機と云はれてゐたが、現在約百五十中

隊、千五百機に達して居ることは非常な躍進であつて、將來整備の目標として居る編制上の諸隊を完成するときは、陸上兵力、偵察七十七中隊、戦闘六十八中隊、爆撃四十九中隊、合計百九十四中隊、約二千百機に上る豫定である。更に航空工業の方面に於ても技術、製造能力共に著しい發達を遂げて居る。現に優秀な自國製飛行機を製作し得るに至つた。その製造能力は明かでないが一九二七——二八年度には約五百臺であつて、各方面の狀況を綜合するに、現在では此の數よりも著しく増加してゐることは疑ひない所である、従つて自給自足の目標に到達することも敢て遠い將來を待たぬであらう。

空軍の強弱が民間航空事業の消長によつて大きな影響を受けることは云ふ迄もないが、サ聯邦も亦民間航空事業の發達に非常な努力を拂つて居る。而して民間航空に對しても他と同様五ヶ年計畫を設定し、その中には多分に軍事的意義が含まれてゐるのが認められる。本年度計上せられてゐる民間航空豫算は約一億五千萬留であつて、當局は航空機の數、投資額等主要事項の發表を避けてゐるから詳かでないが、航空路の現況を見てもモスクワレ

ニングラード間には未だ航空路が開設せられてゐないのに、モスクワから西伯利、或は阿富汗、土耳其等に向つては既に開設せられて居るが如き、之を我が國の民間航空路が、東京—大阪—福岡と云ふ様に經濟的見地を主として航空して居るのに比し、サ聯邦當局の意が那邊にあるかを窺ふに足る。尙、昨年十月末民間飛行事業統一のため、統一全サ聯邦民間航空部なる機關が新設せられ、之を國防勞働會議に直屬せしめて民間航空の計畫、規整、航空路の開役、新航空路の調査、飛行家の養成、飛行機の試験、製作等に任せしめることゝなつた。

サ聯邦の民間航空會社としてはサ、獨合辦のデルフルト會社と統一全サ聯邦民間航空部に屬する義勇航空會社（ドプロリョート）の二會社がある。

現在既に開設されてゐる主要航空路は左の如くである。

- 一、モスクワ—イルクーツク
- 二、イルクーツク—ヤクーツク
- 三、ハバロフスク—ニコライエフスク—オハ（北樺太）

- 四、アルハンゲルスク—コトラス—ウスチスイソリスク（モスクワ地方）
- 五、アルマアタ—セミパラチンスク（中央亞細亞）
- 六、モスクワ—ハリコフ—バクー—テヘラン（波斯）
- 七、テルメーズ—カブール（阿富汗）
- 八、モスクワ—リガ—ベルリン

尙、イルクーツク—浦鹽間及沿海州よりカムチャツカに至る航空路は本年度中に開設せられる豫定になつてゐる。又本年度中に各線とも冬期航空の設備が完成される筈である。五ヶ年計畫に示さるゝ航空路擴張の計畫は左表の如くである。

年 度	航空路數	航空路延長
一九二八—二九	一六	一八、四八二浬
一九二九—三〇	二四	二五、九七二
一九三〇—三一	四〇	四六、四一二
一九三一—三二	六二	七一、一二二
一九三二—三三	一〇〇	一一〇、八三二

右の航空路の開設によつて幾程の飛行機が準備せらるゝかは判明しないが、相當の大な

る數に上るべきは想像するに難くない。

國防充實第一主義

要するに五ヶ年計畫開始以降の進度は頗る顯著なるものあり、就中、軍備に關する限りに於ては計畫通りに遂行せられてゐるのを認める。又前にも述べたる如く國防に關係ある重工業に對しては他の方面を犠牲としてもこれが完成を期し、實施上の成績に於てもその傾向は濃厚である。而してサ聯邦當局は經濟建設五ヶ年計畫は強力なる軍備の支援なしには達成し得ぬものであると信じ、國民の國防充實に對する支援も又甚だ熱烈である。

その一例を擧ぐれば、昨年十一月十五日から同月二十四日に亘り國防飛行化學協會の主催で實施せられた「國防十日週間」に於ては、勞働者大衆と赤軍との連絡の強化、赤軍の技術的進出、民間の航空發達の促進、飛行船の建造、國防飛行化學協會の擴大、等の方針を掲げ、新聞雜誌、ラヂオ、等あらゆる宣傳機關を利用して全國的に國防宣傳を行ひ、モスクワに於ては十日間に亘り一定のプログラムにより各種集會、軍事展覽會、觀兵式等が開

催され、全市宣傳物を以て埋めらるゝの盛觀を呈した。而して此の十日間の記念として飛行機八十七臺が民間から赤軍に獻納せられたのである。斯様な狀況は通常世人の想像し得ない點であつて、或る論者は經濟建設五ヶ年計畫は軍備充實の五ヶ年計畫であるとさへ稱して居る。又今次の五ヶ年計畫には先づ第一に軍備を充實し、今後の第二次、第三次に於る五ヶ年計畫を保證せんとするものであると評せられるが、蓋し一個の觀察として又顧るべきである。如上の批評は兎に角、現實の諸情勢を考察するならば實質に於て五ヶ年計畫は軍備の充實であると云ふも敢て失當の言ではないと信ずる。

第四章 國民私生活の窮困と社會的混亂

物資窮乏と極度の節約

サ聯邦の五ヶ年計畫實施による驀進的建設は以上記述した通りであるが、斯かる強行政策實行のため建設事業進捗の反面として國民大衆の私生活は極度の節約を餘儀なくされ、窮乏甚しい状態であることは前にも之を述べた所であるが、尙茲にその實相を詳説しよう。

元來サウエート政府は農民に對して殆ど穀物の自由賣買を許さず、廉價な國定相場を以て買占める制度を採つて居る。従つて農民達は折角汗水流して多くの收穫をあげても収入はそれに伴はぬ結果として、自家の食糧に當てるだけを生産するに止めるか、然らずんば多少餘分を出しても賣惜みをするこゝとなり、加之、最近に至つては五ヶ年計畫の資金調達のために迫られて穀類の海外ダンピングを執行した關係上、愈々穀類の不足を招來して、近頃では白パンは殆ど手にすることが出來ず、黒パン又は黒と白との合ひの子のカーキ色

のパンしか食へない、而もこれも配給の圓滿を計るため節約を免れず政府は切符制度を採つてパンを分配するの止むなきに至つた。乃ちパンの量は制限せられてゐるが、國民大衆はその配給を得るため毎日早朝颯々長蛇の列を作つてパン配給所の店頭に立つ、併も此の列に立つて結局パンがもらへればまだ好い方で、一定の配給分量だけ出してしまへば遂に空しく歸るものさへあると云ふ慘めな有様である。パンのみに限らず、砂糖、バター、鶏卵茶等の必需品の窮乏してゐることも又同様である。

政府は穀物不足の原因の一として農村文化の向上に伴つて農民が美食するに至つたことを擧げて居る、然し農村文化の向上等は妄りに信じられぬ所で、ロシヤの現状よりして都市の悲惨な有様に比較したならば或は百姓が食物に贅澤であると云ふことも是認されることであらう。數年前サ聯邦を旅行した某氏の實見談によると、列車中でみすほらしい百姓と同席したので、近頃の政府を何う思ふかと色々話しかけて見ると、初めは容易に口を開かなかつたが、共産黨と何の關係もない日本人であると説明すると、漸く態度を變へて話し

出した。即ちその老人は、政府の遣り口を攻撃し種々生活の苦況や物價の高いこと、租税の高率なことを訴へ、自分は勿論、妻子に木綿着物の一枚も買つてやれぬ等、盛んにコボしつゝけたが、麩て晝食になると怪しげな木箱から甘さうな白パンと鶏卵等を出して「貴方も如何です」とすゝめながら食ひ始めた。そこで「生活の窮乏を訴へたのに君は随分贅澤なものを食つて居ますね」と反問すると、その百姓は不平らしく「一體ロシアで食ふことが何だ、勿論、以前私たちは黒パンを食つて居た。その代り自分の欲しいものが買へた、粗食して辛棒してもその甲斐があつたんだ。然し今は黒パンで我慢したつて一月に靴下一足だつて買へやしない、白でも黒でも結局變りはない、こんなことなら白パンを食つた方が得だ。この卵にしても昔これ支持つて行けば子供の玩具の一つも買へたが今は山程卵を積んで行つても何一つ買へやしない」と憤懣の意を洩らした。

又先年ウォルガ河地方を船で旅行した人の話では、當時尙沿岸は非常に淋れて居り、革命戦中に破壊された家屋もそのまゝで、道路も修理されず、何れを見ても革命當時の慘狀

をそのまゝに残して居た。従つて附近一帶の農民の生活状態は非常に悪く、船に乗り込む船客の如きも靴を穿いてゐるのは全く稀で、服はボロ／＼を着け、仲には古毛布で造つた服をまとふて居るものさへあつた。船客に色々話しを聞いて見ると異口同音に租税が高い必需品が手に入らぬと答へ、共産黨であらうと帝政であらうと何れでもかまはぬから、兎に角物資が豊富になり租税が安くなれば好い、と云ふ有様であつた。彼等の食物も又極めて貧弱なもので、西瓜を買つてそれに黒パンを掻き混ぜて食つて居る。聞けば高價なお茶など飲むにも飲めず、此の邊で穫れる西瓜で渴を醫し又飢を凌ぐより仕方がない、もう何年も甘いお茶も飲んだことがない、等と語つた。船員に彼等は此のあたりの貧農かと尋ねると「冗談ぢやない、彼等は皆船賃を拂つたお客さんだ、貧農に船賃など出せるものか」と答へた。

生きんが爲の第一の必要物食糧すら右の様な状態である、更に被服その他の生活日用品、煙草等嗜好品の缺乏に至つては敢て云ふ迄もない。能く莫斯科を通過する外人旅行者が店

頭の飾窓を見て、兎に角品物が並べられて居るので、何かと探して見るが、さて氣に入るやうなものは一つとして見當らぬと云つた實狀である。近頃ロシアでは同じ縞柄ばかり着て居るのを見るが、之は現在國營織物トラストで年齢或は各人の趣好に適する様な各種各様の縞柄の衣地を製造せず、僅かに數種の同様のものばかりを作つて賣り出すので斯様な狀景を呈するわけであるが、縞柄を見ると昨年のもか、今年のもか一見して見分けられると云ふ。

之は只に服裝のみに限らず、總ての物品が國營機關の製造による關係上、各人の嗜みを顧慮するの餘裕なく單一の種類ののみを作り、而もその生産が不足するので各人は大小、適不適をかれこれ云つて選擇することは出来ない。勿論、品柄は同一でも豊富にでも與へられ、ば未だ好いとして、邊避の地方、殊に極東の如きは甚しい物資の缺乏に住民が惱んで居る。そのため北滿から密輸入された麥粉の袋で着物を作つてゐる。××洋行、等と染め附けられた印入りの着物を着て勇敢に歩いて居る田舎娘に屢々出遇つて驚かされる。

次に住宅の問題である、サ聯邦の首府莫斯科は革命前までは其の人口漸く百萬餘に過ぎなかつたが、革命後、都に出て何か仕事にあり付かうと各地から人民が蟄集した結果、最近は人口二百五十萬と云ふ激増振りである。政府はこの情勢に應じて家屋を新築したが到底人口増加の勢に追ひ付くべくもなく、又家屋の修繕も手が廻らぬと云ふ狀態で、住宅拂底、住宅難は愈々深刻となつて來た。そこで政府は已むを得ず、住民一人當り二サーゼン（約疊二枚の廣さ）を標準として住居の割り當を行つた。その結果、一軒の家屋で或る家族はその應接室を、他の家族はその食堂を、又他の家族はその寢室を、と云ふ風に分割して各室を占め、獨身者は以前のその家の女中部屋を貰ふと云ふ具合で、その炊事場、便所等は共同だが、アパート式に作られてゐない昔の個人住宅そのまゝであるから、不便、不都合は想像される。

以前、莫斯科に行くと、壁に祕密電話の装置があつて話したことは忽ち他に洩れ、やがてゲ・ベ・ウに探知されるとの噂があつたが、上記の様な混雜した同居生活であれば、電話

装置など云ふカラクリがなくとも自然、隣り同志の間で拙いことが起り易く仲が悪くなるのも當然である。

共産黨治下の社會相斷片

ボリシエウイキは天下を掌握して以來、その理想に従つて各種の社會施設を行つた、例へば労働者クラブの開設とか、托兒所の設置とか、變つた方面では監獄制度の改變等を實施し外國人の視察旅行者等にはそれ等の新施設を案内してサウエート政治の理想的一面を努めて宣傳して居る。勿論各種の社會施設はボリシエウイキの政策上の約束手形であるから、これ等を全然等閑に附することは民衆統御の上からも不信を招き、又諸外國に對する宣傳にも都合が悪いので、それ等の問題については窮乏の中にも努めて理想實現を期して居るが奈何せん國帑不足の現状、殊に五ヶ年計畫で基本的國家建設事業に没頭の最中として仲々満足に運ばず、その実績は真相を究めると案外貧弱である。

食糧難、物資窮乏、強制統御、此等の社會事象は必然國民大衆の反抗と怨嗟とを招くこ

とは豫想さるゝ。これに對しては即ちゲ・ベ・ウが絶大な權力を以て取締り警戒に當つて居る。國民が迂闊に共産黨政治を攻撃したりすれば忽ち逮捕される、ゲ・ベ・ウの探偵網は先にも一寸述べた様にあらゆる場所に張られてゐるので、人民はめつたに政治論など出來ない、全く窮屈な思ひで生活して居る。日本の下世話に「人を見たら盗人と思へ」と云ふ言葉があるが、これと同様に革命後のロシヤでは「相手はすべてゲ・ベ・ウのスパイと思へ」と云ふ諷刺語が流行したと云はれる。

サウエートの天下では共産黨員は所謂特權階級である。丁度昔の日本の武士と云つた形で、何處に行つても黨員としての位置權力を振り廻して他の者を戦慄させてゐる。従つて黨員でない者の執務振りを見ると實に戦々兢兢たる有様で、只管自分の地位の保持につとめて居る。蓋し總ての事業が國營化されて居るサ聯邦では一度失業する時は再び職を有ることが非常に困難である。例へば國營商店の事務員は積極的に活動して澤山の品物を賣り上げるよりも賣り間違ひをせぬ様に、又帳簿の整理を怠らぬ様に、計算に過ちのない様と

全く消極的に仕事に當る。店を繁盛させるとか利益を上げるとかは殆ど考へることすら不能である。斯うして黨員以外の國民は愈々消極的になる一方、黨員は益々権力を振つて威張ると云ふ風潮が濃厚になりつゝある。

ロシアの秩序は罰金で保持されてゐると云ふも過言でない程である、即ち唾を吐き散すと罰金何程、ベンチで寝たら罰金幾程、何は幾許、彼れは幾許と違法行爲は何でもかでも罰金徴収、まるで商品の定價のやうにそのリストが張り出されてゐる。而してその罰金の納附の方法も頗る簡單に、例へば電車の乗降口を間違へると、直ぐ巡査が飛んで来て規定の罰金を出せと命ずる、その金高を渡すと巡査は罰金の切符を納付の證明として引換に呉れると云つた具合である。

社會が混亂すれば必ず現れるものは乞食と泥棒と浮浪人、及不良少年である。流石に首府の莫斯科では政府當局が絶えずそれ等を追拂ふので、不良少年や乞食は近來ずつと減少したが、拘摸と泥棒は現在でも依然として盛んに稼いで居る。物を盗まれたが最後決して

犯人は分らない。政治警察には全力を注いでゐるが、刑事警察が忽せにされて居る證據である。莫斯科以外の都市、殊に溫暖で衣服のいらぬ南露コーカサス地方の町等ではボロボロの浮浪人、乞食が多い。食堂で食事をして居る客の數よりもテーブルを廻つて施し物をネダル乞食の方が多し位である、と云はれる。

現在政府の最も厄介とする問題の一つは不良少年の始末である、革命と饑饉の副産物として全ロシアに蔓つた不良少年の數は約二十萬と云はれる。父母を知らず家を持たぬ彼等は靴など穿いたことはない、その足の裏はまるで板の様に硬化して居て石コロの上でも雪の中でも平氣で素足のまゝ走り廻る。獸と異なる所は言葉を用ふのと、身體にボロでも兎に角衣服らしいものを纏ふて居る位のものである。十四、五人位で團體を作り、汽車の屋根の上や車臺の下に鳥か蝙蝠のやうに止つて、夏は北に、冬は南にと國中を横行する。各停車場では彼等を汽車から下すとその土地で悪事を働かれるので次の驛へ追拂ふ手段を取る、だから行き度い所まで行けるわけである。各所で孤兒、不良少年の救濟資金の寄附募集を

行つて居るが、その標語に「孤兒を掃除する爲に」と云ふのも又振つて居る。

以上、ロシヤ國民大衆の私生活の窮乏、社會の諸相の一端を述べたのであるが、要するに革命以來、國民一般は極めて陰氣、且頗る辛慘、甚だ重苦しい景團氣に生活して居ると云ふ外はない。ロシヤの民はニチエウオー式で無頓着であり、忍耐心に富むと云はれてゐるが、斯様な困窮、悲慘な状態に果して何處迄堪へ得るであらうか。

第五章 サ聯邦の對外策、就中其の東方策

西方より東方へ

サ聯邦は革命直後その理想とする世界革命の鋭鋒を資本主義の爛熟期に達せる西歐文明諸國に向けた、而してマルクス主義の原理により思想的活動を實行した。而もその最終の目的とする所は資本主義諸國の總本山たる英國の赤化顛覆にあつた。この西歐諸國に對する革命煽動は當初多少の効果を收め、獨逸に於ける革命、ブルガリヤの變亂、英國炭坑勞働者のゼネラル・ストライキ等を惹起した、従つて歐洲に相當の波瀾と恐慌とを捲き起したのであつた、併し歐洲諸國民の理性はロシヤ國民の如くボリシエウイキにとつて好都合ではなかつた。又、大戦に依つて窮乏疲弊の極にある國民等は一意平和を好愛したる爲、西歐赤化の企圖は遂に終局の成功を收むるに至らなかつたのみならず、却つて歐洲諸邦間に對サウエート聯合の觀念を生ぜしめロカルノ條約の如きものを見るの結果となつたのである。

茲に於てサ聯邦は世界革命の鋭鋒を歐洲より轉じて、その植民地たるアジャ方面に向け轉換するに至つた。想ふにアジャ方面に於ては、大戦による混亂と疲弊とは歐洲に比し僅少であつた、然しその國民は多くは歐洲資本主義國家による被壓迫民族であつて機を見て彼等の桎梏の下より脱出せんとする意識は年と共にその熱度を加へ來り、此の民族意識に鑑みアジャ被壓迫民族の解放は、當然歐洲資本主義國を困窮に陥れ革命の過程を促進することに着意し、サ聯邦が西歐赤化の手を緩めて主力を東方に用ふるに至つたのは蓋し當然と云ふべきである。レーニンの所謂「世界革命の運命は東方被壓迫民族の向背に依つて決す」とは即ち此の意味を語るものである。爾來、世界革命の火の手は今日に至る迄アジャの地に炎上して來た。

回教諸國の反歐運動

アジャに於ける回教諸國は二億五千萬の回教徒を有し、其の汎回教運動は大戦前歐洲諸國に對して一の脅威を與へつゝあつた、併しながら歐洲大戦が勃發するや、獨逸は回教諸國

の盟主たる土耳其を抱き込み回教の聖戰を叫ばしめ、之によつて回教諸國を自己に味方せしめんと企てた。併し之は何等の反響もなく回教諸國は將來の獨立と云ふ好餌につられて個々別々にその壓迫國たる西歐諸國に加擔したのであつた。思ふに此の事實は回教諸國が漠然たる回教結合を夢みるよりも民族の獨立乃至解放を熱望することの切なりし結果、頼むべからざる自己の壓迫國に迄加擔するに至つたことを示すものである、即ち民族意識を洞察し此等回教諸國の解放運動に着眼して世界革命の一楔機たらしめんとしたのがサ聯邦の回教諸國解放援助運動である。

其の第一着手は土耳其の國民運動の援助である、即ちサ聯邦はケマルが祖國擁護の旗を掲ぐるや直に之を援助し遂にケマルの愛國排外運動を成功せしめた。次でサ聯邦は回教諸國の排外運動を激成せしむるために、一九二〇年高架索のバクーに回教諸國の被壓迫民族大會を開き其の國民運動を刺激した。この土耳其の國民運動の成功及バクーの大會は回教徒の解放運動を激成し、遂に阿富汗に於てはアマヌラ王による排英政府を樹立せしめ、又

波斯に於てはリザ汗に依つて國民主義の政府を現出せしめた。更にサ聯邦は此等回教三國と關係を結び回教諸國に國家主義的結合の情勢を醸し以て壓迫國たる英國に大打撃を與ふるに至つた。而も此の排英運動は英國の植民地たる埃及及印度等にも波及し、現に此等の國が獨立運動に狂奔中であることは世人の耳目に新なる所である。

對支活動の種々相

サ聯邦の對支活動は眞に周到且巧妙を極めて居る、即ち邊境地方に對する侵略的行爲と支那本部に於ける革命的氣運の醸成との使分けは甚だ鮮かなものである。

先づ支那の邊境に對する侵略は如何と云ふに、サ聯邦は支那本部に對しては諸外國との關係を考慮し帝國主義的侵略を慎みつゝあるも、諸外國との關係薄きその邊境地方に對しては帝國主義的色彩頗る濃厚なるものがある、其の最適例は外蒙に對する侵略である。今その経緯を概説すれば、大正九年後貝加爾に活動してゐたセメヨノフ軍の没落に伴ひ外蒙へ逃げ込んだ白黨軍を討伐するとの名目の下にサ聯邦はその赤軍を該地方に進入せしめた

而て白軍の滅亡した後も尙赤軍を撤退せしめざるのみならず、此の赤軍の脅威の下に、遂に外蒙古サウエート共和國を樹立せしめ、名實共に外蒙古をサウエート聯邦の傘下に羅致した。今や外蒙古に於ては赤色の施政が遺憾なく行はれてゐる。

又新疆地方への進出は已に帝政ロシア時代に於ても屢々試みられた所であつたが、サ聯邦となつて後もこの進出方針には變りなく、彼は新疆との地利的接近を利用して貿易の發達を計り、その貿易額は最近五ヶ年間に輸出に於て三十五倍、輸入に於ては五倍の増加を見るに至つた。又昨年は新疆西方國境に沿ふ千四百五十軒のトルクシブ鐵道を敷設したことは既に述べた通りである、而も新疆地方は支那中央より遠隔の地にあり、早晚サ聯邦の勢力範圍に移るべき状態に在るは大いに注目すべき事象と云はねばならぬ、更に最近赤軍は居留民保護の名によつて新疆に侵入した事實がある。

次に支那本部に於ける革命氣運の醸成は如何、大戦後歐米列強の食指が支那に向つて動きつゝある事は今更説く迄もない、就中、日、英、米、各國は支那に最大の利害關係を有

して居る。サ聯邦は之に鑑みる處あつて支那を赤化することによつて資本主義列強間に争鬪を惹起せしめ、或はその經濟的乃至は社會的不安を増大せしめ以て世界革命への進展を策してゐる。従つてサ聯邦は現在の所支那の赤化を以て最も重要視して居る。

然らば之につき如何なる手段を探りつゝあるか、曩にはレッドゼネラル馮玉祥に對して大なる資本と武器とを提供し、彼を傀儡として支那を統一し更にこれによつて赤化を行はんとした、而して馮が失脚してこの企が失敗に歸するや、國民黨に食ひ込み南方國民革命軍と提携し蔣介石を援けて長江沿岸に北上進出せしめた。然るに、其の後蔣介石の裏切りによつて此の畫策も又挫折するの已むなきに至つた、併しながら此の間に支那民衆に注入した共產主義的思想は相當の効果を現し、現に支那各地に共產軍の活躍するあり、其の剿滅意の如くならず、流石の蔣介石も手を焼いてゐる様な始末である、而して共產軍は今後益々暴威を逞しうせんとする形勢にある。一方支那國民黨の所謂帝國主義打倒、不平等條約撤廢等の反帝國主義運動は是亦凡てサ聯邦の對支活動の影響であつて、最近に於ける租界

回收、治外法權撤廢運動等の如きも又その具體的現れに外ならぬ。

更にサ聯邦の對滿洲政策を見るに彼が外蒙に於て實施した所と全く同一なることが認められる、即ちサ聯邦は帝政時代に於ける侵略政策の遺物たる東支鐵道の權益を回收確保すべくあらゆる努力を拂つた、これが爲武力の使用をも敢て辭せざる事は、昭和五年初の支那側の東支鐵道回收に際し之を恢復するため、滿洲里、ホクラニーチナヤ兩方面に於て露支兩軍の戦鬪を惹起した事によつて見るも明かである。

翻つて思ふに露支兩國の實力は到底比較すべくもない、故にサ聯邦が一度滿洲方面に帝國主義的進出を企圖するに於ては支那は到底之に對抗するの實力はない、然るに彼が此企圖に出ないのは畢竟滿洲問題に關する限り背後に日本が存在して居るが爲である。此の事は東支事件に際しサ聯邦が滿洲里方面へ進出するに當り如何に日本の態度を憂慮したか、その間の消息通の談を以てするも明かである。果して然らば、若し日本にして滿洲問題に於ても積極的態度を取り得ざるが如き弱點を暴露するに於てはサ聯邦は思ひ切つて滿洲方

面に進出するに至ることは明瞭である。

對日關係の實相

最後にその對日本政策を觀察するに當てサ聯邦は日本に對し思想的に攪亂を策し努力したことがあつたが其の成功を期し難きを知り、最近に於ては日本の對サ聯邦權益を侵害するの手段に出でつゝある。而してサ側の第一の目標とする處は北洋漁業に對する壓迫である、此の權益はポーツマス條約に基きサ政府も之を確認したものであるが、浦鹽に於る朝鮮銀行支店問題の如きも單に朝鮮銀行を目標とするものでなく、我が北洋漁業に打撃を加へ以て自己國營漁業の進出を計らんとするにある事は明瞭な事實である。

之を要するに現下のサ聯邦の對外政策は東方諸民族の解放運動に力を注ぎ、その重點は支那に置かれて居るのを見る、而してその行動の跡を觀察するに所謂臨機應變、硬軟自在であつて表裏の使分けは巧妙を極めて居る。而して目下は五ヶ年計畫の進行中であるから對外方面には十分の遠慮と慎重な抑制的態度であるのは當然であるが、然し將來五ヶ年計畫

完成し國力充實の曉に於てはその對外活動の目覺しきものあるべきは豫測するに難くない。

第六章 國策遂行に有利な國家組織

政治組織

以上數章に亘り五ヶ年計畫を中心とするサ聯邦の現況を述べたのであるが、抑々サ聯邦が其の國歩艱難の間に汎ゆる障碍を排除して敢然その目的に向つて邁進し得るのは何故であるか、此の問題こそサ聯邦の現在を見、將來を察するため最も重要な點である、然して之に解答を與へることは本書の眼目とする所である。之がためにはサ聯邦の國家組織に就て觀察する必要がある。

サ聯邦の國家組織を端的に云へば、一黨獨裁共產黨萬能の國家である。先づその政治組織に就て見るに、政治運用機關の要素は他國と同様、政黨、議會及内閣の三つであるが、その内容は全然特異のものである、即ち政黨は純然たる共產黨一黨であつて、他に何等の政黨をも認めない、而も黨員の信念、團結は最も鞏固であつて黨員は殆ど血盟の關係にあ

る。而して黨の組織は各行政區劃毎に黨會議を有し、その最高機關は聯邦共產黨大會である。併し本大會は毎年一回短期間召集せらるゝのであつて、常時は中央執行委員會が黨務を執ることになつて居る、而して黨中最も勢力のあるのは共產黨政治局員であつて之等は凡て黨幹部の獨占する所となりその黨に對する勢力は絶大である。事實サ聯邦百五十萬の露國共產黨員は少數幹部、特に現在は政治局書記長スターリンがその牛耳を執つてゐるのである。

サウエート大會

議會に相當するものはサウエート大會であつて他國の如く二院制度ではない。聯邦の憲法に依れば主權は勞働者、農民、兵卒のみに屬し他の階級は除外されてゐる、従つてこの主權を代表するサウエート大會は萬能の權限を有し、立法、司法、行政の三權共に本大會の行使する所である、本大會も亦毎年一回召集せらるゝに過ぎないので、其の他の期間はその代表たる中央執行委員會が業務を代行し——此の委員會も亦年三回召集せらるゝ規定

である——その閉會中は二十七名の幹事會を以て権限を行使することになつて居る。而してサウエート大會の議員が殆ど總て共產黨員なることは前記の如く、主權が勞農階級にあることによつて想像し得る。又中央執行委員乃至その幹部員の如きは全部共產黨の幹部級の獨占する所であつて最大の國家權力を有するサウエート大會も畢竟少數の共產黨幹部によつて左右何れにも動くのである。

特殊の組織、制度

次に諸外國の内閣に類するものとしては聯邦人民委員會議がある、該會議の委員（即ち首相を始め各省大臣に相當す）は前記サウエート中央執行委員會之を組織し自らは政策を決定することなく一にサウエート各機關の指示に依つて動く所の行政機關に過ぎないものであつて政策的に大なる意義はない。

以上政黨議會、内閣の外、茲に特異なるは全國的に統一した合同國家政治局（ゲ・ベ・ウ）なる機關があつて政治、經濟、思想等有ゆる方面に亘り反革命、反政府運動を嚴に取

締る様になつて居り、共產黨萬能を振り廻す爲間然する所がない。

政治組織の外、經濟組織にしても、社會組織にしても凡て皆、一黨獨裁政治を行ふのに好都合に出來てゐる。經濟組織中、商工業が國營乃至公營であることは既に述べた所であるが、又聯邦として重要視すべき農業も逐次社會化されんとして居る。之を社會組織方面に就て見るも、共產黨が全國的の組織によつて國民大衆を其の主義化すべく誘掖指導しつつあると共に、國民の軍事化、勞働組合の組織結成、極端なる言論の壓迫等により國民大衆をして一路共產主義の指す所に向ふべく他を顧るの餘地なからしめて居る。

第三インターナショナル、その他

以上はサ聯邦の内部が其の獨自の特殊なる國家組織によつて一黨獨裁政治の遂行に誠に好都合に出來てゐることを述べたのである。サ聯邦は更に進んで策動の手を各國に迄及ぼし、その國策遂行を有利に導かんとして居る、流石に世界革命の本山である。而してその國際的組織の尤なるものは周知の第三インターナショナルであつて、其の組織は、本部をモ

スクワに置き各國に支部を設け現在會員三百萬人以上と稱せられてゐる、而も本團體の指導者並高級役員が殆どサ聯邦共產黨員の占むる所となつて居るのを見る時、サ聯邦の世界に對する企圖の如何に雄大にして且好都合なるかを窺ふに足るのである。此の第三インタと同系の國際團體としては、國際青年共產黨（會員三百九十萬）國際職業組合（會員千七百萬）國際農民組合（會員數不詳）及國際革命後援會（會員數不詳）等があり、その各々は自ら赤色の名を冠して居る。

國策遂行の方式

以上によつてサ聯邦の國家組織及其の主義政策遂行の手段方式の大體を紹介したのであるが、サ聯邦はその國策の實現並獨自の侵略的對外策の遂行の爲には全國家の力を動員し國民私生活の犠牲の如きは敢て顧慮せざる實情である。而して上述の如きその獨特國家組織と國政運用の機構とは政府の意向が何等妨げらるゝ所なく斷行さるゝ様最も便宜に制定されたもので、斯る政治は他の一般議會政治の國家に於ては決して行ひ難い所である。

例へば五ヶ年計畫に於て重工業を偏重しその急速なる發達を期するため一般輕工業はこれを犠牲として顧みず、之がため前述の日常必需品の缺乏を來して國民が困窮に辛吟するもその救済は行はれず、却て資金の必要に迫らるゝ時は唯さへ不足勝の穀物その他を海外市場に投資する、即ち國民がパンの缺乏に苦しめらるゝも何等意にかけず必要なる國策を斷行する。又、飛行機の補給を必要とすれば名を國難來に藉りて寄附金を強要し、或は資金の必要を生ずれば屢々内債を起して農民、勞働者の零碎な貯蓄を搾り取る、國策の前には國民の苦惱は毫も顧みられず、時としてはゲ・ベ・ウ或は赤軍をして劍を閃かし銃を擬せしめて民衆を強制することすら辭せぬ有様である。而も政府は新聞、通信等一切言論、宣傳機關を占め、民間の言論は極度に壓迫抑制してその自由意志を發表せしめず、最も有力なる統制方針を以て凡ゆる企畫を遂行して居る。

結 論

今やサ聯邦は五ヶ年計畫の實施に邁進し、これが爲には國民總收入の約四割を徵收して

居る、即ち國民を馳つて戰時的氣分に導き、この大事業の前には民衆私生活が未曾有の困窮に陥るも覺悟の上であると稱して居る。而して、如上の國家機能、政權の統制力、及民衆の忍耐性並廣大なる土地と豊富なる資源等を綜合判斷するときは、本計畫は結局之を實現完成し得るのではあるまいかと思はれる。然り而して計畫成就の曉、其の充實せる國力は果して何處に指向せらるゝであらう？ 吾人は讀者と共に五ヶ年計畫の今後と其の後に來るべきものとを刮目して見よう！

附 録

最近スターリンの激勵演説

本文は一九三一年二月四日、聯邦工業當事者大會に於てなされたスターリンの演説である。如何に彼が黨員に對するアヤに巧妙なるか、而して又建設途上のサ聯邦に、最も缺くる所の技術、科學的知識の獲得に苦心慘愴しつゝあるかの状態が本演説によつて窺ひ知らるゝであらう。

サ聯邦經濟建設當面の諸問題

スターリン

本年度計畫實行の重要性

諸君！ 只今から、諸君は決議にとりかゝられるであらうが、それは疑ひもなく満場一致を以て承認されるであらう。私は、本日の決議の内容を若干了知してゐる。——即ちそれは、諸君が一九三一年度に於ける工業の統制數字を承認し、その實行に對する責任を示されるであらうと云ふことである。

ボリシエヴィキーの言葉——それは確乎たる言葉である。ボリシエヴィキーは自分達のなしたる約束を常に嚴然と實行して來た。

然らば、一九三一年度の統制數字を實行する責任とは如何？ これは、工業生産の四五%

増加を確保することである。併し、これは、實に巨大なる課題である。否、そのみではない。一九三一年度の統制數字を實行すると云ふことは、諸君が、嘗に五ヶ年計畫を四ヶ年で完成する約束をなすこと、そのみならず、工業の基礎的、決定的部門に於ては、五ヶ年計畫を三ヶ年で完成する約束をなすことを意味するのである。

本大會が、一九三一年度の計畫を實行し、五ヶ年計畫を三ヶ年で完成すると云ふ約束をなすことは、勿論大いに可とするところである。併し、吾々は過去に於て「困難なる試練」を経験して來た。加之、吾々は、約束が必ずしも實行されなかつたと云ふことをよく知つてゐる。一九三〇年の初めに於ても、同様に該年度の計畫を完全に實行すると云ふ約束がなされた。この約束に依れば、吾々は、前年度に於ては、我國の工業生産物を三一乃至三二%増加せねばならなかつた。然るに、それは完全には實行されなかつた。一九三〇年度に於ける工業生産物の増加は、實際に於ては、二五%であつた。故に、吾々にとつて問題なのは、本年度に於ても亦同様のことが繰返へされはしないかと云ふことである。

計畫實現の條件

諸君は、今、一九三一年度に於て工業生産高を四五%増加する約束をなさうとしてゐる。さて然らば、その約束を實行する如何なる保證があるか？ 統制數字を實行し、工業生産高を四五%増加するために、五ヶ年計畫を四ヶ年に、さうして、基礎的、決定的部門に於ては三ヶ年に完成するためには、何が必要であるか？

これには、二つの根本的條件が必要である。

第一に、實際の、即ち吾々の用語を以てすれば、客觀的、可能性が存在すること。

第二に、この可能性を實行すべく、企業經營に對する熱意と熟練とを有すること。

前年度に於ては、吾々には計畫を完全に實行する客觀的、可能性があつたであらうか？

然り、あつた。これは既に事實がそれを實證してゐる。即ち、昨年三月及び四月の工業生産高は前年度に比して三一%の増加であつた。扨て然らば、何故に吾々は全年度に亘つて計畫を遂行することが不可能であつたか？ 何が障礙となつたのであるか？ 何處に缺

陥があつたか？

これは、明かに、現存する可能性を充分に利用する熟練を缺き、重工業工場、輕工業工場、鑛山を正しく指導經營する能力を缺いてゐた爲である。

吾々は、計畫を遂行する爲の第一條件即ち、客觀的、可能性を持つてゐた。併し、吾々は第二の條件、即ち生産を正しく指導する能力を缺いてゐたのである。事業を正しく指導する能力を缺いてゐたが爲、計畫は完全に遂行されず、三一乃至三二%の増加計畫は、僅かに二五%の増加を以て終つたのである。勿論、二五%の増加は大事業であつた。資本主義諸國の何れを見ても一九三〇年度に於て生産の増加を示した國はなかつた。現在も亦ない。資本主義諸國に於ては、一の例外さへもなくその生産は著しく減退しつゝある。かくの如き情勢よりすれば、二五%の増加は、それ自體既に巨大なる前進である。

とまれ、吾々は、前年度に於てより以上の成果を收め得た。それは、吾々が、前年度に於ける生産の二五%増加により、最も重要な客觀的條件を持つに至つたからである。

計畫遂行の保證

本年度に於て、昨年度の轍を踏むことなく、計畫を完全に遂行し、現存する可能性を充分に利用し、而して、諸君の約束を一片の反古と化せしめなうためには、如何なる保證が必要であるか？

國家の歴史に於て、國土の歴史に於て、軍隊の歴史に於て、進歩のための、勝利のための一切の可能性を具備しながら、指導者達がそれらの可能性を認識せず、それを利用するすべを知らず、または、軍隊が敗北したがために、これらの可能性が利用せられず無駄となつた場合が往々にしてあつた。

吾々には、一九三一年度の統制數字を遂行する爲に必要な一切の可能性（客觀的）があるであらうか？ 勿論、これらの可能性はある。

然らば、それらの可能性を實現するために必要な要素は何か？

先づ第一に、充分なる自然的富源即ち礦物、石炭、石油、穀物、棉花が必要である。我

が國にはこれらの富源があるか？ 勿論、ある。他の如何なる國々よりも、豊富にある。例へば、ウラルを見よ！ ウラルには他の如何なる國々に於ても見出し得ない富源の結合體が埋藏されてゐるではないか、加之、礦物、小麥、石油、穀物等々は單にウラルのみにあるのではない。我國には、ゴムを除く一切のものが到る處に埋藏されてゐる。しかも二年後にはゴムも亦我國に於て生産されるやうになるであらう。この點即ち自然的富源の點からすれば、吾々は完全に保證されてゐる。我が國には、自然的富源が必要以上に埋藏されてゐるのである。

尙、何が必要か？

これら巨大なる富源を人民の爲に利用する意志と力とを持つ権力（政權）の存在が必要である。吾々にはかくの如き権力があるか？ 無論、ある。成程、過去に於ける吾々の自然的富源を利用する仕事は必ずしも我が國の勞働者間に何等の反對なく實行されたのではな

い。例へば、サウエート政府は第二の石炭冶金基礎地域設定問題に關して、若干の闘争をなさねばならなかつた。併し、この闘争は將來の發展のためには是非、必要であつた。而も、吾々は既にこれらの障碍を克服し終へた。我々は近くこの基礎地域を持つであらう。

尙、何が必要か？

この權力（政權）は、數百萬の労働者及び農民の支持を得ることが必要である。然らば、吾々の權力はかくの如き支持があるか？ 然り、ある。諸君は、サウエート權力の如く労働者及農民の支持をもつ權力を全世界の何處に見出し得るか。私は此處に我が國に於ける社會主義的競争（ソチ・ソレウノウアニエ）衝撃隊（ウダールヌイ・ブリガード）の進展の事實、産業財政計畫（プロム・フキン・プラン）のための闘争カンパニヤ等々の事實を引證するまでもない。これらの事實は、すべて事實そのものゝ中に、サウエート權力が數百萬大衆の支持を享有してゐることを明瞭に實證してゐるのである。

優秀なる制度

一九三一年度の統制數字を遂行するためには又之を超越遂行するためには、尙、何が必要であるか？

資本主義の不治の疾患から解放された、且又資本主義に比較してより優秀なる制度の存在が必要である。恐慌、失業、濫費、廣般なる大衆の窮乏化——これらが資本主義の不治の疾患である。然るに、吾々の制度に於てはかくの如き疾患は脅威とならない。如何となれば、權力は吾々の掌中に、労働者階級の掌中にあり、吾々は計畫的に經濟を實施し、財源を計畫的に蓄積し、さうしてそれを最も正當に國民經濟の各部門に分配してゐるからである。吾々は資本主義の不治の疾患から解放されてゐる。この點にこそ、我が國と世界資本主義諸國との差異があり、この點にこそ、資本主義に對する吾國の決定的優越があるのである。資本家達が如何に現時の恐慌から脱け出ようと焦慮しつゝあるかを見よ！ 彼等は、労働者の賃銀を最少限度に引き下げようとしてゐる。彼等は原料品及食糧品の價格を

最少限度に引き下げようとしてゐる。けれども、彼等は決して工業製品の価格を引き下げようとはしない。これは、彼等が生活必需品を、労働者を、農民を、俸給生活者を、原料及食料品を生産してゐる諸國（植民地及半植民地）を犠牲にして恐慌より脱け出でようとしてゐることを實證してゐるのである。資本家達は、彼等がその上に安坐してゐる枝や葉をすつかり切り拂つて、現時の恐慌から脱げ出さうとしてゐるが、それは、反つて、更に新たなるより激烈なる恐慌への準備をなしつゝあることに考へ及ばないのである。

吾々の優越は次の點にある。吾々は過剰生産の恐怖を知らず、現に數百萬の失業者を持たず且將來も持たぬであらうし、また吾々には、生産に於ける無統制と云ふこともない。如何となれば、吾々は計畫的經濟を實施しつゝあるからである。否、これのみではない。我が國は工業の最も集中化された國柄である。これは、吾々が我が工業をより進歩せる技術的基礎の上に建設し、且又、これを基礎とし空前の労働生産力と蓄積の急テンポとを確保することを意味する。

吾等は進む

昨年度に於ける吾々の弱點は工業が分散せる農民經濟を基礎としてゐた點であつた。併し、これは過去に於てあつたのであり、今日は既になくなつてゐる。明日は、おそらく一ヶ年の後には、吾國は世界に於て最も大規模な農業國となるであらう。吾々には、公營農場（ソフホーズ）と共營農場（コルホーズ）とがある。而して、それは大規模の經濟形態であり、それらは今年度に於て、既に、我が商品豆穀總額の大半を供給したのである。加之、これらは我等の祖國、サウエート國家が、他の如何なるブルジョア國家も夢想だになし得ざる急テンポを以て前進する可能性を、吾々に與へてゐることを意味するのである。

更に、七哩の歩幅で前進をなすためには、何が必要であるか？

最も優秀なる労働者階級の力を一點に集中するために、十分に團結せる、さうして、困難に當面して挫折せず、正しき、××的、ポリシエヴィキの政策を組織的に遂行するたために、十分なる經驗を積める黨の存在が必要である。吾々にはかくの如き黨があるか？

然り、ある。

然らば、吾黨の政策は正しいか？ 然り、正しい。如何となれば、吾が黨の政策は大なる成果を上げつゝあるからである。この事實は、同志のみならず、労働者階級の敵にすらも認められてゐる。最も有名であり、所謂「尊敬すべき」紳士諸君——アメリカのフィシア、イギリスのチャーチル、フランスのボアンカレー——が、吾が黨に向つて如何に吠え付いたり、激怒したりしてゐるかを見よ！ 彼等は、何故に吠え付いたり、激怒したりするのであるか？ それは明かに吾が黨の政策が正しいものであり、且どし／＼成果を上げつゝあるからである。

同志諸君！ こゝに、一九三一年度の統制数字の實行を保證する、五ヶ年計畫を四ヶ年で、また、決定的部門に於ては三ヶ年で完成し得る一切の可能性があるのである。

ポルシエヴィキーの缺陷

以上の如く、吾々は計畫遂行の第一條件即ち客觀的可能性を現有してゐる。

然らば、吾々には、第二の條件即ちこの可能性を充分に利用する能力があるであらうか？ 換言すれば、吾々には、重工業工場、輕工業工場、鑛山を正しく指導し得る能力があるであらうか？ 吾々は、この點に於て些の遺漏もないであらうか？ 遺憾ながら、其處には、可成りの遺漏があると云はねばならない。而も、ポルシエヴィキーたる吾々は、この點に就て卒直に、明瞭に公言する必要がある。

生産を正しく指導するとは、何を意味するか？ 吾々の間には、往々にして、企業の指導的仕事をポルシエヴィキー的に考察しないものがある。吾々の間には、指導すること——それは、書類に署名することだと考へてゐるものが屢々見受けられる。これは悲しむべきことであり、加之、事實である。諸君は、不本意であらうが、此處に於て、官僚シチツドリンが「學問をして頭をこはすな、仕事など研究しなくてもよい、そんなものは他人に譲つて終へ、そんなことは君達の仕事ぢやない、君達の仕事は指導すること即ち書類に署名することである」と云つて、年若き官僚を如何に感化したかを回想される必要がある。

恥づべきことではあるが、吾々ボリシエヴィキの間にも多数の書類に署名するのみで正しく指導しようとしてゐるものが尠くないと云ふことを認めねばならない。かゝる連中は、自分達の仕事を検討し、技術を習得し、経費を節減する——かうした事は一顧だにせぬ連中である。

三度び革命を遂行したる、激烈なる内亂戦を、勝利を以て、終結したる、工業建設の形大なる課題を解決したる、農民を社會主義へ轉向せしめたる吾々ボリシエヴィキが、生産を正しく指導する仕事に於て、書類の前に御辭儀をしたと云ふことが如何にしてあり得るであらうか？

若しあつたとすれば、書類に署名することが生産を正しく指導するよりもより容易だからである。だから多数の經濟當事者が、最も容易なこの手段を採つたまでのことである。これは吾々即ち中央部の怠慢である。十年以前に、吾々は次の如きスローガンを掲げた。

「共産主義者はまだ生産技術に通曉してゐない、従つて彼等は經濟を管理することを學ば

ねばならない。故に技術家、技師、専門家をして生産を行はしめよ！ 而して、共産主義者は、仕事の技術に干與せず、自ら手を下さずして、技術を學び且生産を管理する科學を學べ！ 然る後に、共産主義者は從來の専門家と協力して、生産の眞實の指導者となり、事業の眞實の當事者（主人）となるであらう。これが十年以前のスローガンであつた。而して、實際は如何に實施されたか？ このスローガンの第二の部分は放擲されてしまつた。それは、學ぶことが困難だからであつた。さうして、第一の部分は干與せずと云ふことを生産技術研究の放棄と誤解して、無意味なものとしてしまつた。獲得したものは、より早く、それから解放されることは、より有難いと云ふ有害なる、危険なる囁語のみであつた。加之、事實はこの主旨が徹底されてゐなかつたことをより明瞭に實證した。

障碍とその對策

シヤフチンスキー事件は、その第一の立證である。それは、黨及職業組合が、從來、革命的配慮を缺いてゐたことを曝落してゐる。それは、吾々の經濟當事者が、技術の方面に

於て、依然として進歩しなかつたこと、技師、技術家達が無統制に働いてゐた爲に、容易に有害分子の仲間に向した事、否、そのみでなく、彼等が容易に國外にある仇敵共の「申し込み」に屈服したことを曝露してゐるのである。

第二の立證は「産業黨」事件である。

妨害運動が階級闘争に基礎を置いてゐたことは勿論である。従つて、階級の仇敵共は、社會主義の進展に猛烈に反抗してゐる。けれども、これらの妨害運動が、何故に我が國に於て「完成に開花した」かと云ふ説明には、稍々不十分である。

妨害運動は何故にかくの如く大仕掛に行はれたであらうか？ これは一體誰の罪であらうか？ これは吾々の罪である。若し吾々にして、經濟を正しく指導する事を確立してゐたならば、若し、吾々にして、前以て技術問題の研究に、技術の習得に着手してゐたならば、若し、吾々にして、屢々、且合意的に、經營の指導に干與してゐたならば、妨害者達もかくまで大仕掛に妨害することは不可能であつたらう。

故に、吾々自體が、仕事の専門家、經濟當事者となることが最も必要であり、吾々自體が技術の習得に當面することが最も必要である。

これが、吾々の實行せねばならなかつた肝要事である。とは云へ、第一の立證（事件）も、第二の立證（事件）も、決して、吾々の致命傷とはならなかつた。

技術を獲得せよ

今や、吾々は技術の習得に「面を向ける」べき時である。技術には干與せずと云ふ死せる古臭いスローガンを放擲し、吾々自ら専門家、仕事の立人となり、自ら仕事の完全なる當事者となるべき時である。

何故に、我が國には集權制エジソンチリチエが行はれないか？ と云ふ質問が屢々發せられる。併し、それは、吾々が技術を習得せざる限り、存在し得ないし、又、存在し得ないであらう。吾々ポリシエヴィキーの間に、技術、經濟及財政の問題に通曉するものが多數輩出せざる限り、吾々は眞實の集權制を實施することは不可能であらう。如何に、好き勝手な決議をなして

も、又、好き勝手な言葉を以て誓つても、若し諸君が、技術的に、経済的に、財政的に、重工業工場、軽工業工場、鑛山等を經營しないならば、何事も實行し得ないであらう。故に問題は、自ら技術を習得すること自ら經營の當事者となることにある。唯だこの中ののみ吾々の計畫が完全に遂行され、單一制が實施される保證があるのである。

この仕事は、勿論、容易ではない。けれども完全に克服し得るものである。科學、技術的經驗、知識——これらは、凡て最も重要な問題である。今日、吾々はそれを完全にしたとは未だ云へない。が併し、明日は必ず完全にするであらう。この場合最も必要なことはこの技術を習得し、生産の科學を確立せんとするポリシエヴィキの熱意を持つことである。この熱望によつてのみ一切のものが獲得せられ、一切のものを克服することが可能である。

追ひつき、追越せ

吾々は、往々にして、凡てのテンボを幾何か緩和し、凡ての社會主義的運動を控目にし

ては如何？ との質問に接する。それは、いけない。諸君！ テンボを緩和するなどは、甚だ以てけしからぬことである。緩和するどころか、寧ろ、反對に能ふ限りその力及可能性をより増大しなければならぬ。それは、サ聯邦の労働者及農民に對する吾々の責任であり、全世界の労働者階級に對する吾々の責任である。

テンボを緩和することは後退を意味する。而して、後退は動搖を意味する。吾々は動搖を欲しない。舊ロシアの歴史は、不斷の後退の中に終りを告げた。蒙古王がゐた。トルコの太守がゐた。スエーデンの封建諸侯がゐた。ポーランド、リトワニヤの地主がゐた。イギリス、フランスの資本家がゐた。×××××がゐた。さうして、舊ロシアの軍隊、文化、國力、工業及農業を後退せしめてゐた。茲に於て諸君は、革命前の一詩人の次の言葉を回想する必要がある。汝、貧困にして、而も、豊饒なる底力ありて、而も、無力なる。ロシヤよ——と。

この古き詩人の言葉を、彼等は（蒙古王以下の諸外國の侵入者を指す——譯者）よく知

つてゐた。彼等はロシアを打ち撲り、然る後言つた。「汝、豊饒なる」と——さうして、甘い汁を吸ふことを忘れなかつた。彼等はロシアを打ち撲り、然る後、言つた。「汝、貧困にして、而も無力なる」と——さうして、掠奪することを忘れなかつた。後退のまゝで、無力のまゝで放擲すること——これが、資本主義の法則である。これが貪婪なる資本主義の鐵則である。汝は後れてゐる、汝は無力である——これは、汝を打ち撲るぞ、隸屬せしむるぞと云ふ意味である。

故に、吾々は、これ以上、後れてゐることは、斷じて、許されない。

過去に於て吾々には祖國がなかつた。また、あり得なかつた。併し、今や權力が吾々労働者階級の掌中にある今日では、吾々には嚴然たる祖國がある。故に、吾々は吾等の祖國の獨自性を擁護せねばならない。諸君は、吾々社會主義者の祖國が打ち破られ、その獨自性を喪失することを欲せられるか？ 若し、諸君にしてそれを欲せられないならば、諸君は最も短き期間内に我が國の後進性を清算し、その經濟的進展に於て、眞實のボリシエヴィ

キー的テンボを進展せしめねばならない。道は唯これのみである。

故に、レーニンは十月革命當時、次の如く言つた。

「死か、然らずんば、先進資本主義諸國に追ひ付き、追越すことかだ」と。

吾國は先進資本主義諸國より五十年乃至百年後れてゐる。吾々は、十年間に、この距離を走り終せなければならぬ。吾々は、これを達成するか、然らずんば、壊滅するかの二途あるのみである。

ボリシエヴィキの責務

これが、サ聯邦の労働者及農民に對する吾々の責任である。併し、吾々には、尙、より嚴肅なる、より重要な責任がある。それは全世界のプロレタリアートに對する吾々の責任である。それは、第一の責任と一致する。けれども、吾々は全世界のプロレタリアートに對する吾々の責任をより高く置く。如何となれば、サ聯邦の労働者階級も亦世界の労働者階級の一部だからである。

吾々の勝利は、單にサ聯邦の労働者階級の力に依るのみならず、全世界の労働者階級の援助に依るのである。この援助なくしては、吾々はとつくの昔に、浸蝕されてゐたかも知れないのである。

我が國は全世界のプロレタリアートの衝撃隊であると云はれてゐる。それは正しい。従つて、全世界のプロレタリアートは、吾々よりもより以上に、我々を援助してゐると云へる。さうして、それは吾々が最初に資本主義との闘争に投じたからであり、最初にプロレタリアートの政權を建設したからであり且又最初に社會主義の建設を開始したからである。又、吾々が成功せる曉に於ては全世界を××し、労働者階級を解放する仕事に従事してゐるからである。

然らば、これが成功するためには、何が必要であるか？ それは、我が國の後進性の清算であり、最高度のボリシエヴィキ的テンポを以て社會主義建設を進展することである。吾々は前進しなければならぬ。さうして、それは、吾々を監視しつゝある全世界のプ

ロレタリアートをして「これこそ、吾々の前衛隊だ、これこそ吾々の衝撃隊だ、これこそ吾々のプロレタリアート政權だ、これこそ吾々の祖國だ——彼等は自分達の仕事、即ち吾々の仕事をなしつゝある——よろしい——資本主義を排撃し、彼等を援助し、而して、世界革命を××しよう」と朗かに語らしめる爲に。吾々は、以上の如き、全世界のプロレタリアートの期待を裏切つてはならない。然り、斷じて、裏切つてはならない。若し、吾々が、吾々の名譽を汚すことを欲しないならば、斷じて、これを裏切つてはならないのである。かくの如きが、吾々の責任である。

諸君！！ かくの如き責任は、吾々により、一層のボリシエヴィキ的テンポを以て進展することを嚴命してゐる。

技術を獲得して猛進せん

勿論、吾々は從來、經濟を正しく指導する點に於て、何事をも實行されなかつたと云ふのではない。それは實行された。而も、それは、既に、非常に多く、實行された。吾々は工業

生産物を戦前に比し倍加した。吾々は全世界に於て最も大規模なる農業生産を建設した。加之、今年度に於て生産と、その技術的、財政経済的方面とを習得することに努力するならば、まだより多くをなし得るであらう。

僅々十ヶ年間に、吾々は先進資本主義諸國に後れてゐる、その距離を走り終せねばならない。而も、それが爲には吾が國は一切の客觀的可能性を具備してゐる。唯だ遺憾なのはこれらの可能性を十分に利用する熟練がないのみである。而も、これは吾々に依存する。唯だ、吾々のみに、依存する。

今や、吾々がこれらの可能性を十分に利用することを學ぶべき時である。今や、生産へ干與せずと云ふ陳腐な規定を放擲すべき時である。而して、今や、一切のものに干與すると云ふ新時代に相應する他の新たな規定を採用すべき時である。

若し、諸君が工場の代表者であるならば一切の事務に干與し、一切の事柄を研究し、何ものをも逸がさず、も一度熱心に學べ！ 今や、ポリシエヴィキーは自ら専門家とならね

ばならない時である。改造期に於ては技術が一切を決定する。而して、技術を學ぶことを欲せず、技術を習得することを欲せざる如き經濟當事者は、一の好事家にして、それは眞實の經濟當事者ではない。

扱て、技術を習得することは、困難であらうか？ 否々、然らず。ポリシエヴィキーの攻め落し得ない堡壘は、斷じてない。吾々は最も困難なる多數の問題を解決した。吾々は權力を獲得した。吾々は中農を社會主義へ轉向せしめた。建設の途上に横はる最も重要な事柄を既に遂行した。吾々に残されてゐるものはも早多くない。技術を學び科學を習得することのみである。而して、吾々がこれをなし遂げるならば、吾々が現在では決して夢想だになし得ない急テンボを以て吾々の建設を進展せしめるに至るであらう。而して、眞にこれをなさうと欲するならば、吾々は必ずやこれをなし得るのである。

昭和六年四月七日印刷
昭和六年四月十五日發行

不許
複製

驀進途上のサウエート・ロシヤ

定價金三十錢

著者 高橋利雄

發行人兼
印刷人 岩田壽

東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所 共同印刷株式會社

東京、丸ビル・六九〇區

發行所 露西亞通信社

振替東京六一五〇八番
電話丸ノ内二〇三三番

豫約
出版

サウエート展望畫集

全六冊 一冊一圓

本畫集はサウエート・ロシヤの驚進的一般狀勢、就中五ヶ年計畫に關する、最近の寫眞、ポスター、繪葉書等の珍奇なるものを苦心蒐集し、一目サ聯邦の現勢を展望せんとするものである。
内容見本入用の向は至急ハガキにて申込まれたし。

東京・丸ビル
露西亞通信社

露西亞事情

特輯パンフレット
月三回定期發行
定價月額五十錢

勞農ロシヤを知らずして今日の時勢を論ずるは寧ろ無暴に等しい。先づロシヤを知れ!

- 三二、農村の現狀及失業者救済問題
- 三三、サウエート監獄實驗記
- 三四、極東露領開發の五ヶ年計畫
- 三五、ウクライナの獨立問題
- 三六、最近の勞農露西亞(講演速記)
- 三七、世界革命軍たる赤軍と共產黨
- 三八、波斯及接續地方交通の現狀
- 三九、南露高架索を巡りて(特派員報)
- 四〇、支那革命援助策に共產黨兩意見
- 四一、一周年記念特輯號
- 四二、共產黨の内情
- 四三、赤軍の實力如何
- 四四、サウエート露西亞總豫算 一九二七—二八年
- 四五、度説明報告・一

- 六五、露西亞共產黨の現況其他
- 六六、サウエート聯邦内異民族共和國及州の現況
- 六七、サウエート聯邦内異民族共和國及州の現況
- 六八、トロツキー追放記其他
- 六九、「日露親交か斷交か」を讀みて
- 七〇、共産インターナショナル十週年祝福スローガン其他
- 七一、共產黨に反旗を翻へしたドンパーセの懺悔錄
- 七二、コミンテルンの戰國召集文其他(發賣禁止)
- 七三、トロツキーは君府で如何にして商賣したか其他
- 七四、第二次共產黨内大清掃其他

露西亞事情

特輯パンフレット
月三回定期發行
定價月額五十錢

勞農ロシヤを知らずして今日の時勢を論ずるは寧ろ無暴に等しい。先づロシヤを知れ!

今や、サウエート主義とアメリカ主義は世界史展開の二大要因である。而して又、ロシヤは實験臺上にある人類生活の珍重なる資料である。殊に日本とロシヤとは隣接の間に在り、彼我の交渉密接なるは云ふ迄もない。ロシヤを知る事は吾等の緊急課題である。

特輯パンフレット露西亞事情は、サウエートの政治、經濟、社會、文化等各般の實情並に共產黨の動靜その他、ロシヤの真相を紹介する目的を以て、我社獨特の公正適確なる材料に依り平易簡明に且つ興味深く記述編輯したもので、ロシヤに關心を有する研究者は勿論一般讀書子の好固の讀み物である。

▲露西亞事情既刊目次

- 一、現實と主義の矛盾に悩むサウエート聯邦
 - 二、「サウエート」聯邦社會相の一端
 - 三、國內商業及び外國貿易狀態
 - 四、露西亞の支那赤化方針
 - 五、赤い外蒙とその獨立三週年
 - 六、矛盾と内憂外患の露西亞見聞記
 - 七、當代青年氣質青年共產黨の悲哀
 - 八、北京勞農大使館押收書類の内容
 - 九、露西亞諷刺文學
 - 一〇、半未開的な國民教育の概況
 - 一一、露西亞内の全般的猶太人排斥運動
 - 一二、露西亞國政の官僚僚思想と黨文傳播
 - 一三、恐怖政治の基本法令
 - 一四、夏の莫斯科雜報
 - 一五、農村の概況と土地問題
 - 一六、押收文書より觀たる對支內蒙政策
 - 一七、革命後十年第二期の困厄
 - 一八、波斯に於ける英露の葛藤
 - 一九、サウエート社會の大脅威フリガン問題の考察
 - 二〇、佛國著名記者の露西亞視察記
 - 二一、波蘭とトリニアの紛争問題
 - 二二、幹部派と反幹部派の論難應酬
 - 二三、サウエートの工業化難
 - 二四、サウエート聯邦の未來戰觀
 - 二五、東支鐵道を中心とする露支關係と鐵道の現狀
 - 二六、サウエート聯邦と奈翁主義の能否
 - 二七、露西亞及歐洲諸國視察紀行
 - 二八、農村の現狀及失業救濟問題
 - 二九、サウエート監獄實驗記
 - 三〇、極東露領開發の五ヶ年計畫
 - 三一、ウクライナの獨立問題
 - 三二、最近の勞農露西亞(講演速記)
 - 三三、世界革命軍たる赤軍と共產黨
 - 三四、波斯及接續地方交通の現狀
 - 三五、南露高架索を巡りて(特派員報)
 - 三六、支那革命援助策に共產黨兩意見
 - 三七、一周年記念特輯號
 - 三八、共產黨の内情
 - 三九、赤軍の實力如何
 - 四〇、サウエート露西亞總豫算 一九二七—二八年
 - 度説明報告・一
-
- 四一、サウエート露西亞總豫算 一九二七—二八年
 - 度説明報告・二
 - 四二、サウエート露西亞總豫算 一九二七—二八年
 - 度説明報告・三
 - 四三、極東露領の現在
 - 四四、極東露領の現在と第三インターの沿革及目的
 - 四五、ソシチエンコ著サウエートユーモア文集
 - 四六、プロレタリア獨裁下のサウエート言論界
 - 四七、各國共產黨員數其他
 - 四八、ゴロウキーの最近作其他
 - 四九、今尙ほ匡正されぬ官僚主義の弊風其他
 - 五〇、日露條約と赤化宣傳其他
 - 五一、露西亞の職業組合運動其他
 - 五二、サウエート聯邦の社會保險其他
 - 五三、第三インターの新綱領同上新組織と大會票決權數其他
 - 五四、在歐白系露人の情況其他
 - 五五、サウエート聯邦は何故外資を要するか其他
 - 五六、サウエート新小説「戀すればこそ」
 - 五七、プロレタリアートの使命其他
 - 五八、極東露領に於ける朝鮮人の現況・一
 - 五九、極東露領に於ける朝鮮人の現況・二其他
 - 六〇、工主農從政策を中心とする右傾反對派の出現
 - 六一、極東露領に於ける朝鮮人の現況・三
 - 六二、極東露領に於ける朝鮮人の現況・四
 - 六三、極東露領に於ける朝鮮人の現況・五
 - 六四、赤軍々人及家族の特典其他
 - 六五、露西亞共產黨の現況其他
 - 六六、サウエート聯邦内異民族共和國及州の現況・一
 - 六七、サウエート聯邦内異民族共和國及州の現況・二
 - 六八、トロツキー追放記其他
 - 六九、「日露親交か斷交か」を讀みて
 - 七〇、共産インターナショナル十週年祝福スローガン其他
 - 七一、共產黨に反旗を翻へしたドンパリの懺悔録
 - 七二、コミンテルンの戰闘召集檄文其他(發賣禁止)
 - 七三、トロツキーは君府で如何にして商賣したか其他
 - 七四、第二次共產黨内大清掃其他

サウエート現勢資料

●容内の此るむ極を富豊●

- ▲サウエート國家並政治、國策
- ▲國土、人民並民族問題
- ▲財政、經濟並産業
- ▲外交並對外赤化運動
- ▲軍政、軍備並赤衛軍
- ▲教育、宗教並文化事情
- ▲労働並農村、政策及事情
- ▲共産黨及共産インテナショナル
- ▲サウエート治下の社會問題
- ▲赤露視察記、手記、並評論
- ▲時事、世相、人物月旦並雜錄
- ▲短篇小説及諷刺短文集

刊行の趣旨

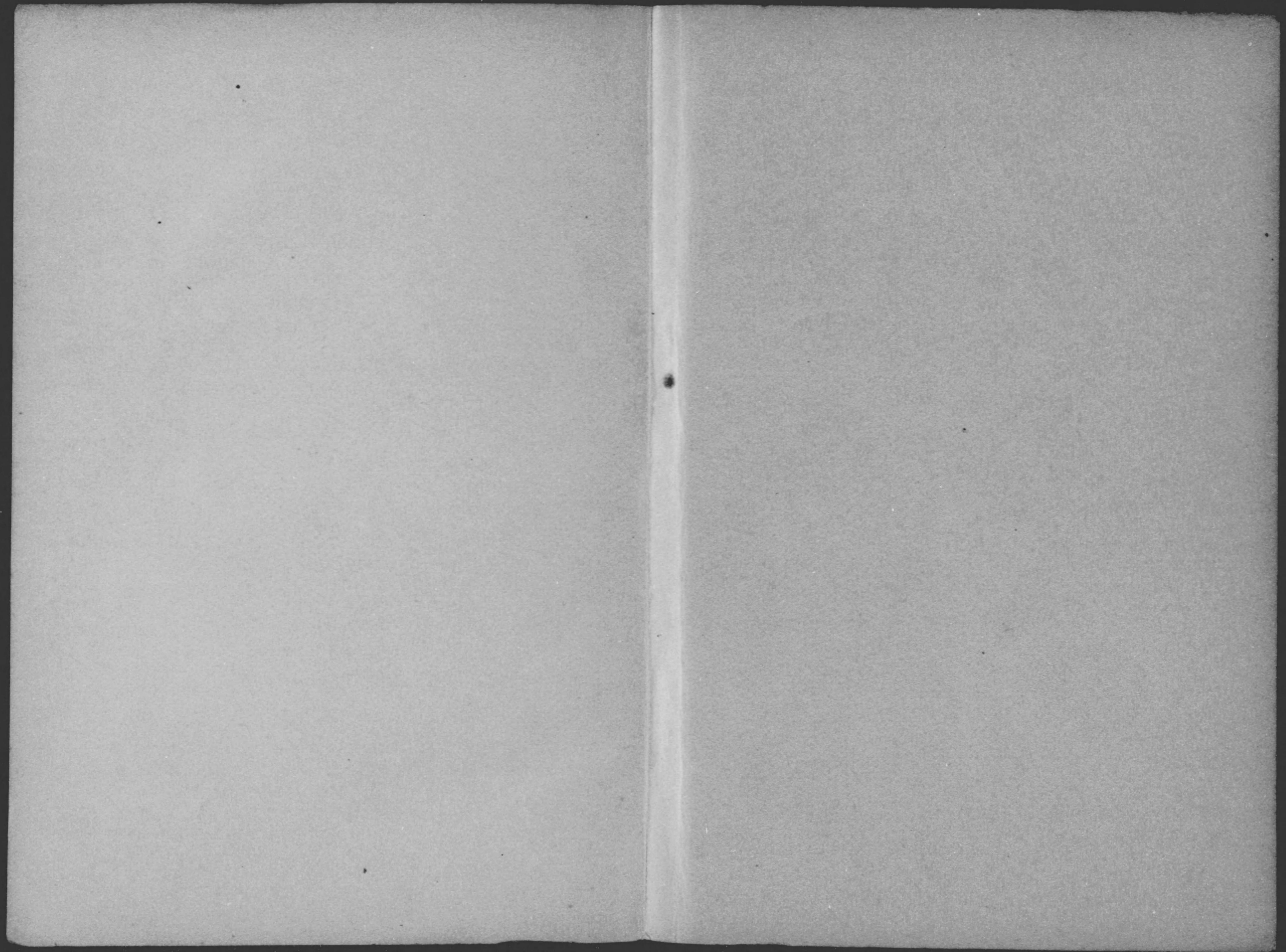
1930年 版
1931年 版

定 價 四 六 版 一 千 頁
布 裝 函 入 五 美 本
代 金 引 內 地 三 十 二 錢
換 送 料 植 民 地 六 十 錢

世 界 過 去 十 餘 年 間、露 西 亞 を 傳 ぶ る の 書 冊 は
 美 國 主 義 者 若 干 が 爲 め に 露 西 亞 を 何
 が 爲 る に せ ん と 欲 せ る 者 若 干 が 爲 め に 露 西 亞 を 何
 善 化 せ ん と 欲 せ る 者 若 干 が 爲 め に 露 西 亞 を 何
 人 爲 的 に 饑 饉 化 せ ん と 欲 せ る 者 若 干 が 爲 め に 露 西 亞 を 何
 是 否 を 論 じ 非 論 争 的 に 論 じ 結 果 的 に 露 西 亞 を 何
 の 爲 め に 書 け る 語 句 非 論 争 的 に 論 じ 結 果 的 に 露 西 亞 を 何
 於 西 亞 を 論 じ 非 論 争 的 に 論 じ 結 果 的 に 露 西 亞 を 何
 の 爲 め に 書 け る 語 句 非 論 争 的 に 論 じ 結 果 的 に 露 西 亞 を 何
 日 本 人 的 見 解 を 示 す 者 若 干 が 爲 め に 露 西 亞 を 何
 義 理 的 見 解 を 示 す 者 若 干 が 爲 め に 露 西 亞 を 何

露西亞通信社出版部

東京丸ビル六九〇區
振替東京六一五〇八番



7